地方教育行政の組織及び運営に関する法律第２６条第１項に基づく

栄町教育委員会の点検・評価報告書

（令和２年度対象）

栄町教育委員会

令和３年１１月

１　はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第２６条第１項の規定により，教育委員会は，毎年，その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い，その結果に関する報告書を作成し，議会に提出するとともに公表しなければならないこととされています。また，第２項では点検及び評価を行うに当たっては，教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとするとされています。栄町教育委員会では法の趣旨に則し，課題や方向性を明らかにし，より効果的な教育行政の推進のため，学識経験者からの意見を受け報告書にまとめ，町議会に提出するとともに，それを公表し説明責任を果たすものです。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第２６条　教育委員会は，毎年，その権限に属する事務（前条第１項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第３項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い，その結果に関する報告書を作成し，これを議会に提出するとともに，公表しなければならない。

２ 教育委員会は，前項の点検及び評価を行うに当たっては，教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

栄町教育委員会委員名簿

職　　名	氏　　名
教　育　長	藤　ケ　崎　　功
教育長職務代理者	中　島　宣　行
委　　員	大　久　保　雅　從
委　　員	石　川　　京　子
委　　員	濱　田　　香　奈

２　教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議は，原則として毎月１回「定例会」，必要に応じて「臨時会」を開催しています。また，教育委員会の所管事項について調査研究等を要するものがある場合に，「委員協議会」を開催する他，教育委員会各課と議題に係る情報共有を図るため「勉強会」を開催しています。

・教育委員会会議　　定例会１２回　　臨時会１回　　委員協議会２回　　勉強会３回

「栄町教育委員会行政組織規則」第７条に基づき，次のとおり審議を行いました。また，定例会・臨時会において委員報告や各所管課等の行事等報告を行いました。

（１）審議内容一覧

内　　容	件　数
教育行政の運営に関する基本方針を定めること	1
教育委員会規則その他教育委員会の定める規程を制定し，又は改廃すること	7
予算その他議会の議決を要する議案について町長に意見を申し出ること	11
教育機関の施設の整備計画を定めること	2
県費負担教職員の任免その他の進退に関する内申に関すること	1
課長及び教育機関（小学校及び中学校を除く）の長を任免すること	1
附属機関の委員を任命し，又は委嘱すること	12
教育功労者を表彰すること	1
教科書その他の教材の取扱いの方針を定めること	1
教科用図書の採択に関すること	3
教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関すること	1
県費負担教職員の人事異動方針を定めること	1
重要又は異例に属する事項	7

（２）議決事項一覧

４月	・附属機関委員の委嘱について（４件） ・令和３年度使用教科用図書の取扱い方針（案）について ・令和２年度栄町一般会計教育費補正予算第１号について ・令和２年度要保護及び準要保護児童生徒の認定について ・令和２年度教科用図書印旛採択地区協議会委員について ・令和２年度教科用図書印旛採択地区協議会専門調査員会調査員の候補者の推薦について
５月	・土地の取得について ・新型コロナウイルス対応にかかる学校再開について ・令和２年度栄町一般会計教育費補正予算第３号について
６月	・栄町立学校における働き方改革推進プランの改定について
７月	・附属機関委員の委嘱について（２件） ・令和２年度栄町一般会計教育費補正予算第４号について ・令３年度使用教科用図書の採択について ・令和２年度準要保護児童生徒の認定について
８月	・栄町学校施設の個別施設計画について ・令和２年度栄町一般会計教育費補正予算第５号について
９月	・財産の取得について ・附属機関委員の委嘱について（２件） ・栄町学校給食センター施設整備計画（案）について
１０月	・栄町私立幼稚園就園奨励費補助金交付規則を廃止する規則について ・令和２年度末及び令和３年度栄町立学校職員人事異動方針（案）について
１１月	・栄町教育委員会の点検・評価報告書（案）について ・令和２年度栄町一般会計教育費補正予算第７号について
１２月	・栄町立小学校及び中学校管理規則の一部を改正する規則について
１月（臨時会）	・栄町立布鎌小学校校舎大規模改修工事請負契約について ・令和２年度栄町一般会計教育費補正予算第９号について
１　月	・栄町立小学校及び中学校管理規則の一部を改正する規則について ・学校施設の開放に関する規則の一部を改正する規則について ・栄町町民運動場及び町民体育館の設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則について
２　月	・令和２年度栄町一般会計教育費補正予算第１２号について ・令和３年度栄町一般会計教育費当初予算について ・令和２年度準要保護児童生徒の認定について
３　月	・栄町教育委員会行政組織規則の一部を改正する規則について ・令和３年度栄町学校教育プラン（案）について ・附属機関委員の委嘱について（４件） ・令和３年度認定文化財ガイドの認定について ・令和３年度栄町社会教育団体の認定について ・ふれあいプラザさかえの休館日における施設の一部使用について ・栄町教育委員会事務局職員（課長職）の任命について ・教育功労者の感謝状について ・令和２年度末教職員人事異動について

目　　次

１　点検・評価の対象 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ｐ１

２　点検・評価の方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ｐ１

３　点検・評価の結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ｐ１

４　点検・評価（施策評価シート）

令和２年度栄町教育方針

基本方針（Ⅰ）

子どもたちが良好な環境で学習できる施設整備を推進します。・Ｐ２～Ｐ５

〇学識経験者の意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ６～Ｐ７

〇学識経験者からの意見を受けた今後の取組について・・・Ｐ８～Ｐ９

基本方針（Ⅱ）

みんなが一体となって栄っこを育成する教育を推進します。・・・ Ｐ１０～Ｐ１８

〇学識経験者の意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ１９～Ｐ２１

〇学識経験者からの意見を受けた今後の取組について・・・Ｐ２２～Ｐ２３

基本方針（Ⅲ）

生きがいが育める学習やスポーツ環境づくりを推進します。・・ Ｐ２４～Ｐ２９

〇学識経験者の意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ３０～Ｐ３１

〇学識経験者からの意見を受けた今後の取組について・・・Ｐ３２～Ｐ３３

基本方針（Ⅳ）

地域に根ざした芸術・文化の育成と文化財等の保護・活用を図ります。

・・・・・・・・・・・・ Ｐ３４～Ｐ３８

〇学識経験者の意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ３９

〇学識経験者からの意見を受けた今後の取組について・・・Ｐ４０

５　本町教育行政が取組む方向について・・・・・・・・・・・・ Ｐ４１

１　点検・評価の対象

点検・評価の対象は,「栄町教育方針」を実現するため，令和２年度の重点的な取組として実施した,「教育施設の充実」「給食施設の充実」「教育のＩＣＴ化の推進」「特色ある学校づくりの支援」「きめ細かな学校教育の推進」「学力向上の推進」「教育行政の推進」「生涯学習機会の充実」「生涯学習施設の充実」「スポーツ環境づくりの推進」「芸術文化活動の支援」「文化財等の保護と活用」の１２の施策について点検・評価しました。

２　点検・評価の方法

点検・評価にあたっては，教育委員会事務局で作成した「施策評価シート」により自己評価を実施しました。
評価は，施策全体の取組状況（達成度）について

- 目　標　を　達　成　★★★
- 目 標 を ほ ぼ 達 成　★★
- 目標に達成していない　★
- 現時点で判定できない　―

の４段階で実績・成果・課題を記述し，評価する方法で行いました。

なお，客観性を一層高めるため，教育に関し学識経験を有する方に取組状況を説明し，基本方針ごとの自己評価に対する学識経験者からの意見をいただきました。ご意見をいただいた方々のお名前は，次のとおりです。

（敬称略）

氏　名　　中澤　一夫　（団体役員）

氏　名　　弘海　千鶴　（元栄町教育委員）

３　点検・評価の結果

施策評価シートにより，点検評価を実施しています。

≪目標に対する達成状況　１２施策の結果≫

目　標　を　達　成　★★★・・・５施策

目 標 を ほ ぼ 達 成　★★・・・・３施策

目標に達成していない　★・・・・・１施策

現時点で判定できない　―・・・・・３施策

４　点検・評価（施策評価シート）

基本方針　（Ｉ）　子どもたちが良好な環境で学習できる施設整備を推進します。

安全で安心な教育環境を確保するために教育施設等の修繕や改修等の整備を推進していきます。また，情報教育時代にあったＩＣＴ設備の設置等ＩＣＴ環境の整備を推進していきます。

【施　策　名】

・教育施設の充実　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ３

・給食施設の充実　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ４

・教育のＩＣＴ化の推進　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ５

〇学識経験者の意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ６～Ｐ７

〇学識経験者からの意見を受けた今後の取組について・・・・・・Ｐ８～Ｐ９

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名	教育施設の充実
現状と課題	・学校は、次代を担う子どもたちの教育を行う場であるとともに、地域住民にとっては地区コミュニティの場として、また、災害時には避難所としての役割を持つ施設であることから社会情勢に対応した整備が求められている。 ・令和2年度は、安食台小学校、栄中学校屋外運動場整備工事を実施した。また、安食台小学校プレハブ校舎は、竣工から30年以上が経過し、施設の安全確保や維持が難しいことから、解体工事を実施した。 ・学校施設を利用する児童生徒等がこれからも安全安心に利用できる施設として提供できるよう継続的な維持管理が必要である。本町の学校施設は、建築後30年以上の建物が全体の80%と、ほとんどの建物で老朽化が進行しており、維持管理に係る修繕費用等の財源措置が課題となっている。

施策の情報整理

目指す成果	安全安心な学習環境を確保するため、各学校の必要な施設等の修繕や改修工事等が計画的に行われている。

成果指標及び実績

指標	教育振興基本計画策定時の現状値（平成30年度）	令和2年度	令和3年度	令和4年度 教育振興基本計画最終年度	目標数値の説明
改修工事着工件数	1件	目標値 1件	目標値 1件	目標値 0件	各年度の教育施設の改修工事着工件数
		実績値 2件	—	—	

施策全体の達成度（★★★）	目標を達成（100%） ★★★ 目標をほぼ達成（80%以上） ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —	施策の事業費（上段：最終予算）（下段：決算額）	
★★★		129,910 千円	
		83,678 千円	

達成度の理由	・栄町教育振興基本計画における目標として、平成31年度～令和4年度の期間に、学校施設の大規模改修工事着工件数を3件（安食台小学校屋外運動場整備工事（令和元年度）、布鎌小学校大規模改修工事（令和2年度）、竜角寺台小学校大規模改修工事（令和3年度））設定した。令和2年度は、安食台小学校及び栄中学校屋外運動場整備工事を実施した。2つの工事は、令和元年度末に国の交付金が採択され、令和元年度中の実施が間に合わないことから、令和2年度に繰越し、改修工事を完了した。 ・以上のことから「目標を達成」と判断した。
設定成果指標以外に現れた成果の説明	・安食台小学校プレハブ解体工事、栄中学校給食リフト更新工事等を実施するなど児童生徒等が安全安心に学校生活が送れるよう教育環境の確保に努めた。 ・施設の維持管理のため、改修費用等の財政措置が課題となっている。この背景を踏まえ、令和2年8月に「学校施設の個別施設計画」を策定した。この計画を基に、中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減・予算の平準化を実現しながら、改修工事を計画的に実施していく予定である。
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	学校施設は、子どもたちの教育を行う場所だけでなく、地域コミュニティ育成の場や災害時の避難場所としても利用されている。これからの学校施設に求められる機能を整備する必要がある。
住民との協働や他課の事業との連携	総務課（安全対策推進室）・消防署 （災害時の避難場所となっていることから、災害時等にも対応できる整備を推進） 総務課では、避難体制の充実を図るため令和2年度に安食小学校、安食台小学校に避難所非常用発電機を設置した。

2. 事務事業の取組

（単位:千円）

事務事業名	令和2年度の取組実績	事業の評価（取組の課題及び今後の課題への対応）	事業費	
① 学校施設大規模改修事業	○安食台小学校及び栄中学校屋外運動場整備工事を実施し、排水機能の強化等を図るなど運動に適したグラウンドに整備した。 ・安食台小学校屋外運動場整備工事 27,830千円 ・栄中学校屋外運動場整備工事 19,470千円 ○布鎌小学校大規模改修工事を令和3年2月に着工したが、年度内に完了することが間に合わないことから令和3年度に繰越しを行い、同年8月に工事を完了する予定である。 ・布鎌小学校校舎工事設計委託 3,960千円 ・布鎌小学校大規模改修工事 22,570千円	【取組への課題】 ・学校施設大規模改修工事には、多額の費用が伴い、国の補助採択が必要である。そのため、補助採択の状況により事業実施が左右されてしまうことから、安定的な財源の確保が焦点となってくる。	H30決算	0
			R元決算	0
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・「学校施設の個別施設計画」を基に、学校施設の実情を踏まえ、安全安心のための施設整備を計画的に実施できるよう、引き続き予算要望を行っていく。	R2予算	119,760
			R2決算	73,830
② 学校施設修繕事業	○児童生徒等の安全安心な学習環境を確保するため施設の老朽化部分の改善を図った。 【主な工事内容】 ・安食台小学校プレハブ解体改修工事 3,903千円 ・栄中学校給食リフト更新工事 1,650千円 ・安食台小学校漏水工事 1,298千円 ・布鎌小学校漏水工事 1,287千円	【取組への課題】 ・大規模改修工事を計画的に実施してきたものの、建築後30年以上経過している学校が多く、設備の不具合が相当数発生している。今後も老朽箇所の修繕や小学校プールの撤去等すべてに対応できるだけの予算措置が課題である。	H30決算	7,679
			R元決算	10,727
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・修繕等が必要とされるすべての部分について、予算措置により対応していくことは難しい状況である。そのため、「学校施設の個別施設計画」を踏まえ、優先箇所を見極めながら計画的に修繕事業を実施していく。	R2予算	10,150
			R2決算	9,848
合計			H30決算	7,679
			R元決算	10,727
			R2予算	129,910
			R2決算	83,678

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名	給食施設の充実
現状と課題	給食センター施設内における配管設備及び調理機器に対する修繕箇所が、年々増加傾向にある。施設機能の低下による給食の安定供給を損なうことのないよう適切な維持管理に努めていく必要がある。
施策の情報整理 目指す成果	将来にわたって安全安心な学校給食を児童生徒に提供できるよう、老朽化が著しい既存の給食センターの建替え計画が進んでいるとともに、その間必要な修繕が行われている。

成果指標及び実績

指標	教育振興基本計画策定時の現状値（平成30年度）	令和2年度	令和3年度	令和4年度 教育振興基本計画最終年度	目標数値の説明
給食施設における修繕及び改修件数	0件	目標値 2件	目標値 1件	目標値 2件（うち改修1件）	既存施設の各年度の修繕及び改修件数
		実績値 2件	—	—	

施策全体の達成度（★★★）	目標を達成（100%） ★★★ 目標をほぼ達成（80%以上） ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —	施策の事業費（上段：最終予算）（下段：決算額）	
★★★			47,209 千円
			32,625 千円

達成度の理由	施設が老朽化し、建替えを予定していることから、必要最低限の修繕の目標値としたが、目標値以上の施設の修繕が必要となり実施したことにより、給食の提供ができないなど特に支障を来たさなかったことから、「目標を達成」と判断した。
設定成果指標以外に現れた成果の説明	学校給食センターの現状と課題を整理し、新たな給食センターについての基本的な考え方・建設方針、建設計画、スケジュール等、整備に必要な「学校給食センター施設整備計画」を策定した。
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	食物アレルギーへの対応、給食への異物混入や食中毒事故の防止等、様々な課題への対応が求められている。給食食材等納入業者や配送業者、各校の職員と連携をし、引き続き安全安心な給食提供のために最善を尽くす。
住民との協働や他課の事業との連携	栄町学校給食センター運営協議会・建替えに伴う庁内関係課（総務課、企画政策課、財政課、建設課、下水道課、長門川水道企業団、まちづくり課）

2. 事務事業の取組

（単位:千円）

事務事業名	令和2年度の取組実績	事業の評価（取組の課題及び今後の課題への対応）	事業費	
① 学校給食センター修繕事業	○給食センター機能の維持管理を図るため必要な修繕を実施した。 【修繕内容】 ・ボイラードレーン等修繕 514,800円 ・食器・食缶洗浄機修繕 923,093円 ・食器等消毒保管機修繕 528,836円 ・浸漬装置修繕 194,524円 ・その他修繕 666,930円	【取組への課題】 ・老朽化による給食センター施設の機能の低下により、修繕箇所が、年々増加傾向にあるため、安心安全な給食の提供を損なうことのないように努めていく必要があること、また、給食センター建替工事が終了するまでの間、効率的に運営していくことが課題である。	H30決算	3,157
			R元決算	3,435
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・給食センター施設の法定点検、保守点検、日常点検等を実施し、機能の維持に必要な個所の修繕等を行う。	R2予算	2,830
			R2決算	2,829
② 学校給食センター建替え事業	○給食センターの建替えに係る基本的な業務を実施した。 ・建設代替用地取得費 20,922,660円 ・印旛沼土地改良区地区除外決済金 1,283,216円 ・分筆登記図面作成委託 198,000円 ・給食センター基本設計業務委託 7,370,000円	【取組への課題】 ・令和2年度からの給食センター建替えにおける建設スケジュールにあわせた課題は以下のとおり。 1. 施設の規模、配置、厨房機器の選定、周辺インフラ整備等 2. 財源確保の問題	H30決算	0
			R元決算	29
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・「学校給食センター施設整備計画」を踏まえ、給食センター用地の地質調査（令和3年度）及び実施設計（令和4年度）を行うなど計画的に建設を進めていく。 ・各関係機関及び施設設備機器の検討を行う。	R2予算	44,379
			R2決算	29,796
合計			H30決算	3,157
			R元決算	3,464
			R2予算	47,209
			R2決算	32,625

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名	教育のICT化の推進
現状と課題	町の人口減少とともに少子化による児童生徒数の減少が予測される中、学校運営や教育活動など子どもたちへの教育の影響の大きさが懸念される。児童生徒及び教職員がより良い環境で学習することができ、安心して学校生活を送れるようにするための学習環境の整備が必要である。 教育のICT化についても、教職員の働き方改革や国のGIGAスクール構想などから、教職員の校務支援及び児童生徒の学習環境の整備として、ICT環境の充実を図っていく必要がある。

施策の情報整理

目指す成果	情報教育の時代にあったICT化に向け、施設や機器などICT環境の充実が図られている。

成果指標及び実績	指標	教育振興基本計画策定時の現状値（平成30年度）	令和2年度	令和3年度	令和4年度 教育振興基本計画最終年度	目標数値の説明
	タブレットを使った授業数	0 授業数	目標値 150授業数	目標値 150授業数	目標値 250授業数	ICT機器を使った授業数
			実績値 0	—	—	

施策全体の達成度（★★★）	★	目標を達成（100%） ★★★ 目標をほぼ達成（80%以上） ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —	施策の事業費（上段：最終予算）（下段：決算額）	194,184 千円 178,610 千円

達成度の理由	令和2年度当初は小学校5年生と中学校3年生を対象として一人一台タブレットの導入を予定していた。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、国のGIGAスクール構想の早急なる実施が求められた。これにより全児童生徒数分を国庫補助（新型コロナウイルス対応地方創生臨時交付金）により導入した。国の方針により日本全国で同様の動きとなったため、整備が早急に進まず、町では、令和2年12月末に全台整備された。町では、各校での活用は始まってはいたものの、学校により導入時期に差があり、教職員の研修など準備期間も短く十分でないことから、令和2年度中の「タブレットを使った授業数」の成果確認を行わず、導入状況の確認を行うにとどめたことから、「目標を達成していない」と判断した。

設定成果指標以外に現れた成果の説明	1月から各校でも活用することができるようになった。各校の状況を確認すると、ドリル的な学習やインターネットを活用した調べ学習など様々な学習場面で活用していることが分かった。しかし、導入時期（タブレットの設定等）のずれがあったため、学校の活用状況には差があることも分かった。

外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	校務支援パソコンの導入や児童生徒のタブレットを活用した取組を、保護者へ周知するとともに、、災害や感染症による臨時休業等が実施された場合において、家庭と連携をした、家庭学習等の取組を行うことが予想される。

住民との協働や他課の事業との連携	教育総務課（施設・備品管理） 財政課（校務用パソコン及びGIGAスクール構想に基づく児童生徒へのタブレット維持に係る予算措置）

2. 事務事業の取組

（単位:千円）

事務事業名	令和2年度の取組実績	事業の評価（取組の課題及び今後の課題への対応）	事業費	
①ICT教育環境整備事業	○令和元年度の繰越事業として、各小中学校にLAN通信機器を整備し、教室内Wi-Fiアクセスポイントを導入した。 ・ GIGAスクールネットワーク整備工事 ・ 通信回線工事 ○国のGIGAスクール構想に基づき、町内全小中学生に一人一台タブレットを整備するとともに、家庭でも活用できるようにした。 ・町内全児童生徒分タブレットの導入 ・タブレット導入に関するシステムの構築 ・支援が必要な家庭向けWi-Fiルーターの購入 ・学習支援ソフト E-ライブラリの導入 ・ICT支援員の活用	【取組への課題】 ・国のGIGAスクール構想に基づく、1人1台タブレット導入やオンライン授業システムの構築後の具体的運用及び各校における効果的な活用を推進する。	H30決算	0
			R元決算	0
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・一人一台タブレットを授業で効果的に活用することができるための研修会を開催する。 ・ICT環境整備に係る契約をした内田洋行との綿密な打ち合わせ、教育委員会内の連携及び情報共有、不具合・トラブル等への対応を行う。	R2予算	194,184
			R2決算	178,610
			H30決算	
			R元決算	
			R2予算	
			R2決算	
合計			H30決算	0
			R元決算	0
			R2予算	194,184
			R2決算	178,610

学識経験者の意見（基本方針（Ｉ）について）

【施策名：教育施設の充実】

・安食台小学校および栄中学校の屋外運動場整備工事，令和３年度竣工の布鎌小学校大規模改修工事などが実施され，子どもたちの学習環境がだいぶ整ってきていると思います。子どもたちは，よりよい学習環境で勉強ができることが大切なので，とてもよいことだと思います。これからも計画的に学習環境の整備に努めていただきたいと思います。

・安食台小学校，栄中学校の屋外運動場，令和３年度に繰越した布鎌小学校校舎と学校施設の整備が実施され学習環境の整備が進みましたが，報告書に記載されていない安食小学校，竜角寺台小学校の今後の修繕計画について教えてください。過去に，安食小学校の大規模改修工事を行っていることは聞いていますが，階段の天井の雨漏りなど修繕を必要とする箇所がたくさんあります。他の学校も含め，子どもたちの安全面や衛生面からも点検の実施をお願いします。

・学校は地域の防災拠点となっていますが，災害等で避難者を受け入れた場合，食料の提供など対応できる期間はどれくらいあるのでしょうか。また，避難者の方がＷｉ－Ｆｉを使える環境は整っていますか。

【施策名：給食施設の充実】

・給食センターは，建設時から３０年以上経過して，老朽化もかなり進んでいます。そのような中で，適切な維持管理を行いながら，給食の提供を支障なく進めていただきありがとうございます。

・「施策の事業費」について，令和２年度の予算額４７，２０９千円と決算額３２，６２５千円に約１４，０００千円の差があります。この要因としては，「事務事業の取組」②「給食センター建替え事業」の「課題を踏まえ今後の対応」部分の給食センター用地の地質調査や実施設計，施設設備機器の検討などが影響していますか。当初計画で予定していた事業を行わなくてもよくなったのか，あるいは実施することができなかったため影響したのか要因を教えてください。

【施策名：教育のＩＣＴ化の推進】

・「達成度の理由」の中で，「国のＧＩＧＡスクール構想（※１）の構築が，新型コロナウイルス感染症の影響により，全国で同様の動きとなったことで整備が早急に進まず」とありますが，感染の影響が全国的な規模であったことから，それについてはやむを得えないことであったと思います。そのような状況の中，教育のＩＣＴ化の環境を整えるために大変なご尽力をされたと思います。そう考えると，「成果指標及び実績」の「タブレットを使った授業数」は，整備が進んでいない状況下での指標であり，大変厳しい内容だと思われます。教育のＩＣＴ化の推進という観点から，「タブレットを使った授業数」というよりは「タブレットの配備」についての進捗状況など環境整備についての内容でもよかったのではないかと思います。そのような指標にすることで「施策全体の達成度」の評価も上がったのではないかと思います。

・ＩＣＴ教育に関しては，先生方もパソコンを相当使いこなされていると思いますが，子どもたちのトラブルシューティング（※２）などに対応できる技術的なレベルを上げていただけるとありがたいと思います。

・タブレットは小中学校の１年生の入学に備えて，予算を計上し購入していくのでしょうか。

・令和２年度の１２月に一人一台のタブレットが導入されて，令和３年度の１学期にどれくらい授業で使用していたのか教えてください。また，「達成度の理由」の中で，「教職員のＩＣＴ研修」について記載されていますが，皆さんどれくらい使えるようになってきているのか教えてください。学校と家庭との連携の中でトラブルを起こさないためにも，先生方には研修だけでなく日頃から使える環境で子どもと一緒に取り組んでいただけたらよいと思います。

・タブレットが故障した時は，どのように対応されていますか。

（※１）国のＧＩＧＡスクール構想…児童生徒向けの一人一台の学習用パソコンと高速通信ネットワーク環境などを整備し，多様な子どもたちを取り残すことなく，公正に個別最適化された創造性を育む教育を，全国の学校現場で持続的に実現させる構想。

（※２）トラブルシューティング……何らかの原因により発生した異常事態を解決し，正常な状態にするための方法のこと。

学識経験者からの意見を受けた今後の取組について

教育総務課より

【施策名：教育施設の充実】

１．安食小学校，竜角寺台小学校に係る修繕計画について

安食小学校は，大規模改修工事から３０年近くが経ち，ご意見をいただきましたように，雨漏りだけでなく修繕を要する箇所が多く老朽化が進んでいます。安食小学校の大規模改修工事については，給食センターの建替え工事終了後の令和７年度に実施する方向で，現在，財政課と協議をしております。また，竜角寺台小学校につきましては，令和４年度に長寿命化のための予防改修工事を予定しています。現在，施工するための詳細な図面などを作成する実施設計と国の交付金申請に係る事務手続きを進めているところです。各校の大規模改修工事の実施まで期間があることから，子どもたちの安全面に配慮し，計画的に施設・設備の点検と修繕を行ってまいります。

２．避難所開設時における物資供給等の対応について

災害により被害が拡大し，避難所が長期間開設された場合は，町と㈱ナリタヤなどの企業と災害時の物資供給に係る協力について協定を結んでおり，町が物資を必要とする際に，協力を要請し，その時点で調達可能な食料品・日用品などの物資の供給をいただける仕組みを整えております。

３．避難所が学校に開設された場合のＷｉ－Ｆｉ環境について

平成３０年度に国の交付金を利用し，災害時はインターネットによる情報収集を行うことができ，平時には学校教育におけるＩＣＴ化の推進へ向け活用することを目的として公衆無線ＬＡＮ環境整備を行い，学校体育館と校舎内の５校７５箇所にＷｉ－Ｆｉのアクセスポイント（ネットワーク通信を仲介する機器）を設置しました。

なお，避難所運営を担当する総務課の安全対策推進室では，避難所が開設された場合に備え，Ｗｉ－Ｆｉの利用について避難者の皆さんへ周知をできるよう準備を進めております。

【施策名：給食施設の充実】

１．学校給食センター建替え事業に係る事業費について

令和２年度に給食センター建替えに伴う建設地代替用地に係る土地の取得を行いました。その用地の造成工事に使用する土砂は公共事業で発生した土砂を無料で提供していただくことから，公共事業の進捗状況により，土砂の搬入が令和２年度と令和３年度の２カ年に渡ることとなりました。そのため，令和３年度に１２，０００千円ほど繰越しを行ったものです。

なお，建設地代替用地に係る造成工事は，令和３年７月に終了しました。

学校教育課より

【施策名：教育のＩＣＴ化の推進】

１．「成果指標及び実績」における「指標」の設定について

栄町教育振興基本計画策定時（平成３１年３月）の「指標」は，「タブレットを使った授業数」ということで，令和２年度は「１５０授業数」を設定しておりました。これは令和２年度に導

入予定としていた，小学校５年生と中学校３年生を対象に想定したものでした。その後，国のＧＩＧＡスクール構想により，児童生徒一人一台に対象が変わり，令和２年１２月末までにすべての児童生徒への導入が完了しましたが，整備に時間がかかり職員研修等が十分に実施できなかったため，町では，タブレットを使った授業数についての調査を実施することは見送りました。そのため実績値については，「０授業数」としました。実際の授業数は，タブレットを使用した調べ物やドリル等の学習など相当数の授業を行っています。ご意見をいただきましたように，「成果指標及び実績」の「指標」については，策定時と現在の状況により反映できない部分もあることから，次期基本計画において検討していきたいと考えます。

２．教育のＩＣＴ化推進における取組状況について

令和２年１２月にタブレットが児童生徒に一人一台整備され，ＩＣＴ支援員とともに導入の準備を行いました。ＩＣＴ支援員は，先生方の支援や学校で導入した「ラインズ」というドリル等の学習や，「チームス」という会議などで使用するソフトを活用しながら取り組んでいただいています。緊急事態宣言などによる学校の休業に備え，各家庭でも使用することができるように取組を進めてきましたので，臨時休業時は児童生徒がタブレットを持ち帰り，各校それぞれに「ラインズ」を使用したドリル学習や，「チームス」を使用したオンライン学習の練習などができるようになっています。一人一台の導入から１年を経過していない中で，様々な課題もあると思いますが，学校，家庭，ＩＣＴ支援員，教育委員会，委託先の㈱内田洋行の職員と連携し対応しております。

３．タブレット故障時の対応及び新入生に係るタブレットの貸与について

タブレットの故障時は，基本的には修理して対応しております。修理が不可能な物については，予備が数台あることからそちらで対応します。また，タブレットの貸与については，小学校ごと中学校ごとに貸与するようになり，小学校では，６年生が使用していたものを新１年生にお渡しすることになります。

基本方針　（Ⅱ）　みんなが一体となって栄っこを育成する教育を推進します。

創意と活力のある教育活動の中で，基礎・基本の習得及び思考力・判断力・表現力の育成，並びに望ましい勤労観・職業観の育成を図るキャリア教育を充実させ，個性を活かすきめ細やかな学校教育を推進します。

【施　策　名】

・特色ある学校づくりの支援・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ１１～Ｐ１２

・きめ細かな学校教育の推進・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ１３～Ｐ１４

・学力向上の推進　　・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ１５～Ｐ１６

・教育行政の推進　　・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ１７～Ｐ１８

〇学識経験者の意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ１９～Ｐ２１

〇学識経験者からの意見を受けた今後の取組について・・・Ｐ２２～Ｐ２３

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名	特色ある学校づくりの支援
現状と課題	国際化、情報化、科学技術の発展、環境問題への関心などが高まり、また、町では、人口減少とともに少子化による児童生徒数の減少が予測される。そのような状況の中をたくましく生きていく人材を育てるためには、豊かな人間性を育むとともに、一人ひとりの個性を生かし、その能力を十分に伸ばすことが必要になってくる。そのためには、学校の教育活動全体を、児童生徒の個性を生かせるような創造的で柔軟なものにしていく必要がある。町では、令和2年度中に、働き方改革の一助として、教職員用校務支援システムを導入するとともに、児童生徒に、国のGIGAスクール構想に基づき、一人一台タブレットを整備することとした。これらを活用しながら、各学校が児童生徒や地域の実態を十分に踏まえ、、また、学校と地域が一体となり、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開することにより、一人ひとりの個性を生かした生きる力を育む教育が可能になる。

施策の情報整理

目指す成果	望ましい学校教育のために、保護者や地域住民が学校運営に参加することにより、各小中学校の特色ある学校づくりが推進されている。また、教員の働き方改革を進めることによって、教員が児童生徒一人ひとりへ対応する時間が増え、教員の児童生徒への指導力の維持向上が図られている。学校・保護者・地域が一体となり、多くの目で児童生徒を見守り、支援することにより、児童生徒が生き生きと学習に取り組むことができ、将来に対するビジョンを持つことができている。

成果指標及び実績

指標	教育振興基本計画策定時の現状値（平成29年度）	令和2年度	令和3年度	令和4年度 教育振興基本計画最終年度	目標数値（教育振興基本計画）の説明
児童生徒へのアンケート	小 85%	目標値 90%	目標値 90%	目標値 90%	学校生活アンケートによる「将来に対するビジョンを持つことができている」児童生徒の割合
		実績値 73%	—	—	
	中 74%	目標値 82%	目標値 85%	目標値 90%	
		実績値 72%	—	—	
学校評議員へのアンケート	—	目標値 70%	目標値 80%	目標値 90%	学校評価アンケートによる「保護者地域住民が参画した『特色ある学校づくり』を推進している」と感じた割合
		実績値 83%	—	—	

施策全体の達成度（★★★）	目標を達成（100%） ★★★ 目標をほぼ達成（80%以上） ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —	施策の事業費（上段：最終予算）（下段：決算額）	
★★			39,765 千円
			35,832 千円

達成度の理由	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止により、令和2年3月から5月まで学校の臨時休業が行われた。約3か月間（令和2年度は2か月間）の休業により、児童生徒は大きな不安を感じながらの生活になった。この間、学校は、児童生徒とのコミュニケーションを切らすことのないよう様々な方法で対応してきた。また、学校が開始されてからは、授業時数の確保や教育相談活動など、学習と心のケアに全力で取り組んできた。また、感染症の不安の中での生活ではあるが、「新しい生活様式」の中、学校・保護者・地域が一体となり、児童生徒の支援を行っている。また、学校は学校評議員等を通じて、地域住民の意向を反映した開かれた学校づくりを実践できており、これらにより「目標をほぼ達成」と判断した。
設定成果指標以外に現れた成果の説明	教職員用校務支援システムを導入し、年度末から試験的運用を始めたところである。文書の配付、管理、提出などに成果を上げているところである。今後、本格運用に向けて、さらなる整備・支援をしていく必要がある。教員アシスタント職員をより一層効果的に活用することにより、教員の事務負担を軽減し、より充実した学習指導が行えるよう支援していく必要がある。
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	・各地域におけるふれあい推進員を含めたPTA組織・地域の活動力の維持 ・地域コミュニティスクールの導入について
住民との協働や他課の事業との連携	・地域学校協働本部及びふれあい推進員等による放課後ふれあい教室等、学校と地域が一体となり、地域ぐるみで子どもを育む体制が確立している。 ・通学路の危険箇所の確認を建設課、印旛土木事務所、警察署、地域ボランティア、各学校教員と共同して行った。

2. 事務事業の取組

（単位:千円）

事務事業名	令和2年度の取組実績	事業の評価（取組の課題及び今後の課題への対応）	事業費	
① スクールバス運行事業	○統合により遠距離の通学となった児童生徒が安全に通学できるよう、スクールバスの運行継続。 ・小中学校共に登下校時2便の運行 安食台小学校 旧北辺田小学校区：マイクロ 旧酒直小学校区 ：中型 栄中学校 旧竜角寺台小学校区：大型 マイクロ 旧酒直小学校区：中型 ○運行委託（栄町シルバー人材センター） ・スクールバス運行回数 通常運行 189日 休日運行 39日 校外学習 14回 プール送迎 なし 布鎌小送り 20回 他課利用 なし ○借上バス マイクロ1台 中型4台 大型5台 ○通学路点検（10月・2月の年間2回実施）	【取組への課題】 ・スクールバスの安全運行を確保する。 ・委託先（シルバー人材センター）の運転手の高齢化への対応。 ・運行計画表の変更に伴う、学校・教育委員会・委託業者との連絡調整の徹底を図る。	H30決算	15,489
			R元決算	17,398
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・スクールバスの安全運行については、教育委員会、学校、栄町シルバー人材センターとの連絡調整を密にし、運行時間の調整、運行ルートの精査等を実施し、適正かつ安全な運行を行っていく。特に突発的な事故等への対応や賠償等が発生した事案については、栄町シルバー人材センターとの間で合意を図る。また、令和4年度以降の運行の在り方についても検討していく。 ・また、通学路の安全を確保するため、バス運行の視点も加味した通学路点検を実施し、危険箇所の確認を行い安全対策を講じていく。	R2予算	10,905
			R2決算	9,188
② 教員アシスタント職員活用事業	○教員の長時間勤務環境を是正し、教員が児童生徒と向き合う時間を確保するため、教員アシスタント職員を全校に1名を配置した。	【取組への課題】 ・児童生徒は学校で7時間から8時間在校しているが、教員アシスタント職員の勤務時間が1日6時間であることから勤務時間の調整が必要である。	H30決算	6,552
			R元決算	7,343
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・1日6時間の勤務時間の範囲内で、各学校に応じた対応で活用していく。	R2予算	6,481
			R2決算	5,184

③	校務支援ICT活用事業	○教職員の校務作業の負担を減らし、子どもと向き合う時間を確保するため、コンピュータを使った校務支援処理について検討を行った。 全129台 県費負担教職員用　113台 学校支援職員用　　16台	【取組への課題】 ・「GIGAスクールネットワーク整備事業」として、教職員一人ひとりへ新たな校務支援システムを導入したPCや各教室用及び児童生徒一人一台授業用タブレットを導入した。今後導入したものを効果的に活用し、教職員の負担軽減や児童生徒の学力向上につなげられるかが課題である。	H30 決算	0
				R元 決算	0
			【課題を踏まえ今後の対応】 ・校務支援ICTの導入により、教職員の校務作業の負担を減らせるよう積極的に活用する中で、子どもと向き合う時間を確保するため、コンピュータを使った校務支援処理が実施できるようにしていく。 ・授業用タブレットを積極的かつ効果的に活用し、児童生徒の学力を向上できるようにするための、教職員対象研修会を各校にて実施するとともに、情報主任研修会を通して校内のタブレット活用スキルの向上に向けた情報を共有する。 ・また、内田洋行のICT支援員を各校週1回で配置するとともに、町内支援員を2名配置し、PCの積極的活用を支援する体制を構築する。	R2 予算	14,400
				R2 決算	14,275
④	地域人材等の活用推進	○学校評議員設置業務 ・学校評議員を各校に配置をした （1校あたり5名以内） ○地域住民による学校支援推進業務 ・地域住民による教育活動の充実のための学校支援（ゲストティーチャーなど）の推進をした。 ○教育振興支援事業 ・学校教育振興会へ補助金を交付し、学校活動の支援をした。 ○学校安全指導業務 ・新1年生を迎えた1学期に各小学校で、交通安全教室及び防犯教室を開催した。 ○学校運営の支援業務 ・小学校に学校用務員（会計年度任用職員）の配置をした。	【取組への課題】 ・学校安全指導業務を通じて交通安全指導を行っているが、千葉県内では小中学生の交通事故や犯罪に巻き込まれる事例が発生しているため、指導を工夫していく必要がある。	H30 決算	7,249
				R元 決算	7,577
			【課題を踏まえ今後の対応】 ・学校評議員の意見に対する学校の対応について、教育委員会が状況を把握し、必要な措置を講ずることで、保護者や地域住民の意向を反映し、開かれた学校運営に努めていく。 ・不審者事案にあったときは、躊躇なく警察に連絡するように周知するとともに、警察・交番・駐在所・防犯パトロール・地域防犯グループなどに、巡回を依頼する。 ・交通安全指導の際、事故発生場所や発生形態についてより具体的に児童生徒に伝える。 ・実例や「いかのおすし」などのキーワードを活用し、児童生徒が身近な危険として認識し、安全な生活について考えるための防犯教室を実施する。	R2 予算	7,880
				R2 決算	7,086
⑤	栄っこ宣言の推進	○「栄っこ宣言」にある、5つの行動規範を心の糧として夢に向かってがんばり、ふるさと「栄町」を愛する心を育てていくため、学校行事や集会活動の際に啓発をした。	【取組への課題】 ・町内にある幼稚園、保育園、栄特別支援学校、小中学校の連携を視野に入れた取組を推進していく必要がある。	H30 決算	0
				R元 決算	0
			【課題を踏まえ今後の対応】 ・各小中学校の全児童生徒が「栄っこ宣言」の唱和を実施することで、具体的な行動へと発展させていく。	R2 予算	99
				R2 決算	99
合　計				H30 決算	29,290
				R元 決算	32,318
				R2 予算	39,765
				R2 決算	35,832

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名	きめ細かな学校教育の推進
現状と課題	栄町では、「学校教育」を進める上で、「知」「徳」「体」のバランスのとれた「生きる力」の育成を目指している。学校・家庭と地域及び子どもたちが「みんなで支え、共に伸びる教育」を柱とし、子どもたちが変化の激しい社会をたくましく生きていけるよう、基礎・基本の定着を図り確かな学力を習得させるとともに、地域の特性を生かした体験活動を充実し、個に応じたきめ細かな指導を推進してきた。 自ら学ぶ意欲を身に付けた心豊かでたくましい子どもを育てるためには、学校支援教員や介助員を活用したきめ細かな教育の展開や家庭や関係機関との連携による心の教育の充実、教職員の指導力向上などが求められている。
施策の情報整理 目指す成果	一人ひとりの個性を生かす教育を充実することによって豊かな心を持ち、社会の変化に対応するたくましく生きる児童生徒を育成することができている。

成果指標及び実績

指標	教育振興基本計画策定時の現状値（平成29年度）	令和2年度	令和3年度	令和4年度 教育振興基本計画最終年度	目標数値の説明
教職員へのアンケート	小 —	目標値 80%	目標値 90%	目標値 90%	学校生活アンケートによる「小中が連携して児童生徒を育成することができていると感じている」教員の割合
		実績値 83%	—	—	
	中 —	目標値 70%	目標値 85%	目標値 90%	
		実績値 59%	—	—	
児童生徒への到達度アンケート	小 74%	目標値 82%	目標値 86%	目標値 90%	学校生活アンケートによる「自分には良いところがあると思う」児童生徒の割合
		実績値 66%	—	—	
	中 80%	目標値 86%	目標値 90%	目標値 90%	
		実績値 88%	—	—	

施策全体の達成度（★★★）	★★	目標を達成（100%） ★★★ 目標をほぼ達成（80%以上） ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —	施策の事業費（上段：最終予算）（下段：決算額）	21,477 千円 18,834 千円

達成度の理由	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止により、令和2年3月から5月まで学校の臨時休業が行われた。約3か月間（令和2年度は2か月間）の休業により、学校の多くの行事が中止、縮小など例年と異なった形で実施されることとなった。町主催の小中連携プロジェクト会議や小中生徒指導会議を中止とすることが多く、町内の教職員の連携も十分に行うことができなかった。しかし、各校においては、小中のつながりを意識しながら、「新しい生活様式」の中、児童生徒の学習支援、生徒指導支援を行うことができた。また、スクールカウンセラーや教員アシスタント職員、学校支援教員、介助員、学校図書館司書の配置は引き続き計画的に実施され、臨時休業中も職種を超えて協力連携して、業務を遂行することができた。これらにより、きめ細かな学校教育が推進されていることから、「目標をほぼ達成」と判断した。
設定成果指標以外に現れた成果の説明	教員アシスタント職員、学校支援教員、介助員、学校図書館司書の配置により、本務教職員の校務負担が軽減され、教職員の児童生徒に向き合う時間の確保、学習指導準備等の時間の増加など、働き方改革につながり、結果として児童生徒への指導が充実して行えるようになった。 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の活用により、学校図書館の蔵書がほぼ標準冊数となり、児童生徒の読書活動の充実が図られている。
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	・教職員のモラールアップに対する取組 ・学習環境と教員の「授業力」の向上 ・特別支援教育に関するニーズの高まりときめ細かな対応 ・スクールカウンセラーの必要性の高まり
住民との協働や他課の事業との連携	・総務課（会計年度任用職員（教員アシスタント職員、学校支援教員、介助員、学校図書館司書等）の配置） ・生活保護世帯対象のサポート塾に生活困窮対象生徒が参加し、個別支援による学習に取り組んだ。

2. 事務事業の取組

（単位:千円）

事務事業名	令和2年度の取組実績	事業の評価（取組の課題及び今後の課題への対応）	事業費	
① 不登校相談・支援推進事業	○教育相談体制整備業務 ・教育相談体制として教育相談員、小学校スクールカウンセラーを配置し、各校平均月1日のカウンセリングを行った。 ○教育支援センター運営事業 ・「ゆうがく館」に小学生1人、中学生1人が継続して通所した。 ゆうがく館は、学校適応専門官を配置し、不登校児童生徒への登校刺激や指導に当たるとともに、家庭訪問の実施や保護者との面談等による連携を行った。 また、教育支援センター指導員を配置し、不登校児童生徒に対する指導、相談及び集団適応支援を行った。	【取組への課題】 ・不登校対策として小中学校とゆうがく館との情報共有や連携が課題である。	H30決算	3,010
			R元決算	2,929
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・学校適応専門官による学校、児童生徒、ゆうがく館、家庭等支援。 ・スクールカウンセラーを小学校4校に1人継続的な配置をする。 ・アウトリーチ型の長欠児童生徒対策を検討する。 ・不登校対策にかかる専門員の配置について検討する。 ・ゆうがく館の土曜日開館による週5日開館体制を検討する。	R2予算	3,832
			R2決算	2,965

②	個に応じた授業を推進するための教員の配置	○指導法改善推進業務 ・小学校4校に学校支援教員（6人）を配置した。 ○特別支援教育整備業務 ・小学校3校に5人、中学校に2人の介助員を配置した。 ○教育支援委員会運営業務 ・教育支援委員会を年間2回開催し、適正な就学指導を行った。 ○印旛地区教育委員会連絡協議会から防災教育の指定を受けている、布鎌小学校への支援を行った。	【取組への課題】 ・特別な支援を必要とする児童生徒が年々増えていることから、就学相談・就学指導を適切に行うとともに、介助員の支援時間数増についても検討する。 ・インクルーシブ教育システム構築のための研修を推進し、どの児童生徒にとってもわかりやすい授業づくりをめざす。 ・町内教職員の指導力向上のため、小・小、小・中連携を拡大していく。 【課題を踏まえ今後の対応】 ・保護者の意向を踏まえた就学相談業務、就学指導について適切に対応していく。また、学校、教育委員会の役割を明確化するとともに、特別支援学校も含めた3者間の連携を密にし、児童生徒の状況に応じた就学支援を行っていく。 ・特別支援教育の教育課程、個別の指導計画、個別の教育支援計画の更なる充実を図る。 ・小中連携プロジェクトにより、共通課題を持ち、小・小及び小・中連携を推進していく。	H30 決算	13,351
				R元 決算	12,647
				R2 予算	15,084
				R2 決算	13,445
③	読書活動支援の充実	○各小中学校に、学校図書館司書を配置し、児童生徒の読書活動の支援に取り組んだ。支援には本の充実だけでなく、図書室の運営、環境整備も行い、児童生徒にとって通いたくなる場所の提供につながった。 ○新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の活用により、学校図書館の蔵書がほぼ標準冊数となり、児童生徒の読書活動の充実が図られている。	【取組への課題】 ・図書館司書として継続して勤務できる専門性の高い人材確保が課題である。 ・ほぼ標準冊数となった各学校の学校図書館の蔵書の適切な管理と、効果的な活用が課題である。 【課題を踏まえ今後の対応】 ・児童生徒の学習意欲向上のため、学校図書館司書を継続して配置する。 ・司書同士の研修会や交流会を企画し、図書室の環境などを相互に高めあう環境をつくる。 ・学校図書館と町図書室とをつなぐ、コンピュータシステム等の導入により、適切な蔵書管理や効果的な学校図書の活用を図る。	H30 決算	2,384
				R元 決算	2,396
				R2 予算	2,561
				R2 決算	2,424
合　計				H30 決算	18,745
				R元 決算	17,972
				R2 予算	21,477
				R2 決算	18,834

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名	学力向上の推進
現状と課題	栄町では、「教育」を進める上で、「知」「徳」「体」のバランスのとれた「生きる力」を育成している。学校・家庭と地域及び子どもたちが「みんなで支え、共に伸びる教育」を学校教育の方向性として位置づけ、子どもたちが変化の激しい社会をたくましく生きていけるよう、基礎・基本の定着を図りながら学力を習得させるとともに、地域の特性を生かした体験活動を充実し、個に応じたきめ細かな指導を推進してきた。 自ら学ぶ意欲を身に付けた心豊かでたくましい子どもを育てるためには、各種の学力向上事業の推進により、基礎基本の知識技能に加え、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度や能力といった学力を確実に育成することが求められている。
施策の情報整理 目指す成果	基礎・基本を定着させ、思考力・判断力・表現力を伸ばす教育が充実することによって、グローバル化等、社会の変化に主体的に対応できる人材を育成することができている。

成果指標及び実績

指標	教育振興基本計画策定時の現状値（平成29年度）	令和2年度	令和3年度	令和4年度 教育振興基本計画最終年度	目標数値の説明
授業がわかる児童生徒の割合	小 85%	目標値 90%	目標値 90%	目標値 90%	学校生活アンケートによる「授業がわかると感じている児童生徒」の割合
		実績値 91%	—	—	
	中 74%	目標値 85%	目標値 85%	目標値 90%	
		実績値 91%	—	—	
家庭学習に毎日取り組む児童生徒の割合	小 72%	目標値 80%	目標値 85%	目標値 90%	学校生活アンケートによる「学校の勉強以外に勉強をしている児童生徒」の割合
		実績値 82%	—	—	
	中 67%	目標値 75%	目標値 80%	目標値 85%	
		実績値 85%	—	—	

施策全体の達成度（★★★）	★★★	目標を達成（100%） ★★★ 目標をほぼ達成（80%以上） ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —	施策の事業費（上段：最終予算）（下段：決算額）	12,701 千円 12,389 千円

達成度の理由	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止により、令和2年3月から5月まで学校の臨時休業が行われた。約3か月間（令和2年度は2か月間）の休業により、児童生徒は大きな不安を感じながらの生活になった。この間、学校は、児童生徒とのコミュニケーションを切らすことのないよう、様々な方法で対応してきた。児童生徒も、学校からの定期的な家庭学習課題にしっかりと取り組むことができ、学校が再開されてからも、引き続き継続的に取り組むことができた。また、再開後の学校では、授業時数の確保や時数の少ない中での効果的な指導方法の模索など、常に工夫した取組が行われてきた。これらが、「授業がわかると感じている児童生徒の割合」の向上につながったものと考える。わくわくドラムについても新型コロナウイルス感染症の影響で中止が続いたが、開催してからは児童生徒の積極的な参加がみられた。以上のことから「目標を達成」と判断した。
設定成果指標以外に現れた成果の説明	新型コロナウイルス感染症の拡大防止により行われた臨時休業後再開された学校では、教職員による工夫した取組が行われてきたが、児童生徒も、各種行事の中止や縮小、夏休み中の臨時登校など、これまでの生活と異なった学校生活となったが、集中して学校生活に取り組むことができ、意欲的な学びにつながったと考える。
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	・学習環境と教員の「授業力」の向上 ・児童生徒が、自ら課題を見つけ、家庭学習に取り組むことができるような支援 ・家庭との連携による家庭学習の充実
住民との協働や他課の事業との連携	・福祉・子ども課、生涯学習課（学校を通じて提出された要保護準要保護の申請書をもとに、情報交換を行った。）

2. 事務事業の取組

（単位:千円）

事務事業名	令和2年度の取組実績	事業の評価（取組の課題及び今後の課題への対応）	事業費	
① わくわくドラム推進事業	○栄フューチャースクール（わくわくドラム）事業 ・7月～8月の夏季休業中、「基礎学力充実コース（14 回）」は新型コロナウイルス感染防止のため中止。 ・12月の冬季休業中、「基礎学力充実コース（2回）」を実施し、休業中の児童生徒の家庭学習の習慣づけに寄与するとともに、基礎基本の充実、探究的学習への意欲づけを図ることができた。 ・「サタデーわくドラ」として栄フューチャースクールを隔週土曜日に開催し（新型コロナウイルス感染拡大防止のため9月以降年間全10回）、基礎基本の充実を図ることができた。	【取組への課題】 ・学年、学校により、県学力検査の県平均を上回っていない教科がある。小中連携による実効性のある授業改善研修を一層推進する。 ・支援してくださる協力員の確保。	H30 決算	2,017
			R元 決算	2,107
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・県学力検査の落ちている領域を明らかにし、計画的に取り組んでいく。 ・小学校低学年から支援する体制の必要性について議論していく。 ・小中連携教育の中で、「自分の言葉で学習のまとめを書く」活動を位置づける。 ・「学力パワーアップ総合月間」の充実を図る。 ・年間を通して、「わくドラ」として栄フューチャースクールを維持・発展させるためのボランティアスタッフの確保と研修を行う。	R2 予算	1,154
			R2 決算	1,035

②	中学生海外派遣事業	○栄町元気事業支援日本食研基金中学生海外派遣事業 ・国際理解教育の推進のため、町内の中学生をオーストラリア・メルボルン州へ派遣し、現地校での語学研修とホームステイ体験を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で実施ができなかった。	【取組への課題】 ・令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかったことが、翌年以降の中学生の意欲の低下につながらないような取組が必要となる。	H30 決算	3,662
				R元 決算	3,746
			【課題を踏まえ今後の対応】 ・SNSやICT等を活用して、現地の方々と交流を継続し、国際化社会で生きる生徒を育むとともに、海外派遣事業に参加できなかった他の生徒にも国際交流や異文化交流で培ったものを還元できる場を設定する。	R2 予算	0
				R2 決算	0
③	外国語教育の推進	○小中学校外国語教育推進業務 ・小中学校に外国語指導助手（ALT)を小学校2名、中学校1名を配置し、小学校外国語活動及び外国語、中学校英語指導の支援を行った。 ・中学校卒業時に英語検定3級以上の英語力を身に付けていることを目標とし、年間1回受検料の全額助成を行った。	【取組への課題】 ・小学校外国語活動及び外国語科の充実を図る必要がある。 ・指導と評価の一体化のため、教師力の向上の必要がある。 ・国際化社会に生きる児童生徒の実現に向け、国の設定する目標「中学3年生の半数が英語検定3級相当の英語力を身に付ける」ために具体的な対策が必要である。	H30 決算	11,534
				R元 決算	13,332
			【課題を踏まえ今後の対応】 ・より多くの生徒が英語検定のより高い級を受験し、かつ合格できるよう、学習支援を行っていく。 ・ALTによる英語検定2次試験対策を行い、英語検定3級取得に向けた支援を充実させる。 ・ALTによる小学校教員への研修を行う。 ・安食小学校に配置された英語専科の教諭や中学校の英語科教諭の専門性を生かし、小中連携の視点で研修を推進する。 ・英検助成制度の周知を図り、上位級の取得に向け計画的に検定を受けることができるよう支援する。	R2 予算	11,547
				R2 決算	11,354
合　計				H30 決算	17,213
				R元 決算	19,185
				R2 予算	12,701
				R2 決算	12,389

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名	教育行政の推進
現状と課題	町の人口減少とともに少子化による児童生徒数の減少や、長期に渡り新型コロナウイルス感染症の影響が予測される中、学校運営や教育活動など子どもたちへの教育の影響の大きさが懸念される。児童生徒及び教職員がより良い環境で学習することができ、安心して学校生活を送れるようにするための学習環境の整備が必要である。児童生徒が、健全育成のため物心両面にわたって必要な支援援助を受けることのできる体制を整備し、そのための手立てを講じる必要がある。

施策の情報整理

目指す成果	児童生徒が学校生活に必要な援助が受けられるとともに、健康面における支援を受けられることにより、安心して学校生活が送れるようになっている。

成果指標及び実績

指標	教育振興基本計画策定時の現状値（平成29年度）	令和2年度	令和3年度	令和4年度 教育振興基本計画最終年度	目標数値の説明
学習支援を充実させるための事業に対する苦情件数	0 件	目標値 0件	目標値 0件	目標値 0件	窓口・電話対応の苦情件数
		実績値 0件	—	—	

施策全体の達成度（★★★）	★★★	目標を達成（100%） ★★★ 目標をほぼ達成（80%以上） ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —	施策の事業費（上段：最終予算）（下段：決算額）	173,219 千円 152,833 千円

達成度の理由	・私立幼稚園保育料等補助金、私立幼稚園児副食費助成金について適正に執行することができた。 ・就学支援事業については、支援を望む保護者に対し、公平公正な調査と必要な支援を行うことができた。 ・教育委員会の所管事項の審議や報告について、教育委員会会議定例会を12回、布鎌小学校校舎大規模改修工事に係る契約等について臨時会を1回開催したほか、重要事項について調査研究を行う委員協議会を2回開催した。今後も円滑に教育行政を行えるよう適正な時期に会議を開催する予定である。 ・私立幼稚園保育料等補助金の交付、支援を望む保護者への就学支援及び第3子以降給食費の無償化事業等の児童生徒の学校生活に必要な支援援助を行い、苦情はなかったことから「目標を達成」と判断した。
設定成果指標以外に現れた成果の説明	
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	学校、保護者と連携した、食物アレルギーを持つ児童生徒の確認と安全安心な給食の提供及びアナフィラキシーショックに対する対応。
住民との協働や他課の事業との連携	・福祉・子ども課（私立幼稚園就園支援事業） ・健康介護課（食育　歯科保健指導） ・教育総務課（施設管理）

2. 事務事業の取組

（単位:千円）

事務事業名	令和2年度の取組実績	事業の評価（取組の課題及び今後の課題への対応）	事業費	
① 私立幼稚園就園支援事業	○私立幼稚園保育料等補助金業務 世帯の所得に関係なく、国の幼保無償化に伴い、幼稚園に支払う保育料及び入園料について、月額25，700円を上限とした補助を行った。（町から幼稚園に直接補助することで保護者負担がなくなった） ○私立幼稚園児副食費助成金業務 施設等利用給付認定保護者が支払うべき食事費（副食費）について、世帯の町民税所得割額の合計額が、77，100円以下の世帯に対し、申請により月額4，500円を上限に助成金の交付を行った。	【取組への課題】 ・私立幼稚園保育料を幼稚園へ直接、補助することで、保護者負担の軽減につながったが、振込までに期間を要することから、幼稚園の事業運営を踏まえ早期に支払うことが必要である。 【課題を踏まえ今後の対応】 ・幼稚園の事業運営の経費にもなるため早期に補助金の支払い手続きを行っていく。	H30決算	16,354
			R元決算	23,309
			R2予算	30,189
			R2決算	27,557
② 就学援助事業	○要保護及び準要保護児童生徒就学援助業務 ・学校教育法に基づき、経済的理由により就学困難と認められる児童生徒の保護者に対し、教育委員会会議で認定を受け、必要な援助を行った。 （2年度末現在小学校16人　中学校13人） ○特別支援教育就学奨励業務 ・特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者に対し、経済的負担を軽減するため、負担の能力に応じ、就学に必要な援助を行った。	【取組への課題】 ・認定基準の中の基本的な事由が前年分の所得によることから、申請時の経済状況と必ずしも一致していない場合が見受けられる。 【課題を踏まえ今後の対応】 ・民生児童委員による聞き取りを従前より踏み込んだ形で行ってもらうよう要望するとともに、必要に応じて申請者と面接をするなど数字に表れない部分を確認していく。	H30決算	4,370
			R元決算	3,369
			R2予算	5,578
			R2決算	3,561

③	学校給食センター運営事業	○町内の児童生徒に対し、安心安全な給食を提供するため、給食運営事業を円滑に行った。 ○新型コロナウイルス感染症対策による学校の臨時休業に伴い令和2年3月から5月の給食を停止した。 ○上記臨時休業期間の授業の遅れを取り戻すため、夏休み期間内の15日間の給食を無料提供とした。 ○学校給食の意義について理解を深めてもらうため、家庭教育学級、保護者会等の要請に応じ試食会として学校給食を提供する機会を設けた。また、布鎌小学校・安食小学校の児童に対し施設見学の受け入れを行った。	【取組への課題】 ・事業の財源である学校給食費における未納者への対応及び感染症対策の徹底。	H30 決算	130,348
				R元 決算	123,277
			【課題を踏まえ今後の対応】 ・安心安全な給食を提供するため、学校給食従事者に対し異物混入防止策及び新型コロナウイルス等感染症対策の周知徹底を行う。 　また、アレルギーの児童生徒に対し注意を促すため、給食の原料となる詳細な品目を、その該当者と学校に配布する。 ・学校給食未納者に対し、納付書を送付し支払いを依頼するとともに、児童手当からの徴収も実施し、収納対策の強化を図る。	R2 予算	137,452
				R2 決算	121,715
④	第3子以降給食費の無償化事業	○保護者の経済的負担の軽減及び子育て支援のため、第3子以降の給食費の無償化を実施した。 第3子無償化による減免額 小学生 　90名×4,500円×9月＝3,645千円 中学生 　12名×5,100円×9月＝551千円 合計 4,196千円	【取組への課題】 ・特になし。	H30 決算	0
				R元 決算	0
			【課題を踏まえ今後の対応】 ・学校を通じ本事業を周知するとともに、今後も継続実施する。 （※第3子無償化は減免事業となるため、予算計上はなし。）	R2 予算	0
				R2 決算	0
合　計				H30 決算	151,072
				R元 決算	149,955
				R2 予算	173,219
				R2 決算	152,833

学識経験者の意見（基本方針（Ⅱ）について）

【施策名：特色ある学校づくりの支援】
・栄町には，地域ごとに様々な特色があります。学校では，その地域ならではの学びを取り入れていただくことは大事だと思います。歴史に関することや色々な知識をお持ちの方がいるので，その方々が子どもたちの指導に活かせるような場を設けていただければと思います。町民の方の中には，子どもたちに地域ならではのお話など教えたいと考えている方がいるかもしれません。また，そうした方の発掘も必要になるのではないかと思います。

・「成果指標及び実績」の指標「児童生徒へのアンケート」について，令和元年度の実績値は小学校で９４％，中学校で８０％，令和２年度の実績値は小学校で７３％，中学校で７２％でした。目標値に比べて低い実績となりました。これは新型コロナウイルス感染症の影響により学校が休業になったことや修学旅行などの行事の制限でモチベーションが上がらないことも影響しているのでしょうか。子どもたちにとって，修学旅行など行事で体験したことは大人になっても覚えています。長い目でみたときに，コロナ禍でその思い出づくりができないことが課題だと思います。そのような状況の中，先生方は学校生活において色々と工夫をされて頑張っていらっしゃると思います。

・中学校では，令和２年度の修学旅行が中止になりましたが，先生方は，その代わりに色々な行事を提案してくださいました。夏休みの期間中にはキャンプファイヤー，３月にはお別れ遠足を企画していただくなど，子どもたちにとってはありがたい思い出でした。今年に入って，小学校の保護者の方とお話をする機会があったのですが，修学旅行に予定通りに行ける学校と行けない学校があることを聞きました。保護者の方は，「子どもたちは同じ中学校に行くので，思い出として行先も同じ場所に行きたかった」ということでした。学校ごとに児童数も違うので，各校足並みを揃えることが難しいことをお伝えしましたが，学校からも保護者の理解を得られるように，情報を発信していただければよいと思います。

【施策名：きめ細かな学校教育の推進】
・「成果指標及び実績」の指標「教職員へのアンケート」について，目標数値の割合が令和元年度は小学校中学校共に１００％でした。令和元年度と比較して令和２年度は小学校が８３％，中学校が５９％と共に下がりましたが，新型コロナウイルス感染症の影響が大きかったのでしょうか。それだけ，先生方は大変な思いをされていると思うので頭が下がります。「施策全体の達成度」も☆２つでやむを得ないところがあると思いますが，先生方のご苦労を考えると☆３つでもよいと思います。

・ゆうがく館は，土曜日も開館になりましたが，利用状況について教えてください。

・事務事業③「読書活動支援の充実」の「課題を踏まえ今後の対応」部分について，「学校図書館と町図書室をつなぐ，コンピューターシステム等の導入により，適切な蔵書管理や効果的な学校図書の活用を図る」とありますが，もう導入されましたか。コンピューターシステムを導入すれば，学校図書館にないものは町の図書室で借りられるということはわかりますが，今はどの小学校でも図書室から新しい本を借りられることや生涯学習課から新着図書の一覧表が学校や地域でも配布されていて，常に情報が入ってくるのでありがたいことです。今のままでも情報は得られるので，コンピューターシステムは構築しなくてもよいのではないのかと思い

ます。

・以前，手賀沼の沿革史が読みたくなり，ふれあいプラザの図書室で探しましたが，そこには蔵書がなかったので，調べてもらいました。他市の図書館にあることがわかり，さらに自宅に近い図書館まで取り寄せてもらえることになりお借りしました。図書館のネットワークが構築されていると大変便利です。また，新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金で蔵書が増えたことも大変よいことです。映像から頭に取り込むことと読んで頭に取り込むことは違います。本を読む習慣を子どものときから身につけるということは大変よいことと思いますので，図書室，学校図書館を大いに活用していただきたいと思います。

【施策名：学力向上の推進】

・「成果指標及び実績」の指標「授業がわかる児童生徒の割合」について，新型コロナウイルス感染症の影響で休業したにもかかわらず，実績値が目標値を上回っていました。先生方は，２ヶ月にわたる休業期間の勉強の遅れを取り戻すことは大変なことであったと思います。このアンケート結果は，先生方の意欲のあらわれによるものだと思います。また，子どもたちも勉強に対する危機感があったのでしょうか。素晴らしいことだと思います。一人ひとりの勉強に取り組む意欲がこのまま継続していくとよいと思います。

・事務事業②「中学生海外派遣事業」について，新型コロナウイルス感染症の影響により，海外派遣事業が中止になったことはやむを得ないことです。派遣事業に参加することができなかった子どもたちの残念さを感じます。布鎌小学校の英語授業を拝見したことがあります。授業中の会話はすべて英語でした。昔と比べると想像がつきません。世界の公用語を早い時期から身に付けることは大事なことです。これからも英語教育に力を入れていただきたいと思います。

・事務事業②「中学生海外派遣事業」について，新型コロナウイルス感染症の影響により中止になったことは，子どもたちも楽しみにしていたと思うので残念です。国際交流はなかなかできない貴重な体験なので，ホームステイまでいかなくても英語を聞いたり話をしたりできる機会があるだけでも違うと思います。私の子どもも参加させていただいて，寝る時以外は英語で話をしなければいけないということで，日本に戻ってきた時は英語に対しての意識にだいぶ変化がありました。それを見ているので，中学生には，１日，２日でも英語にふれる交流ができるような機会を作ってもらいたいと思いました。来年も新型コロナウイルス感染症の影響で中止になることも考えられますが，海外派遣事業に代わるイベントなどがあるとよいと思います。それをきっかけに子どもたちは，「英語検定３級を取得したい」など英語に対する意欲が高まると思いますので，ぜひご検討をお願いします。

【施策名：教育行政の推進】

・長引く新型コロナウイルス感染症の影響で生活困窮家庭がさらに増えている状況です。その中で，幼稚園就園事業，就学援助事業，第３子以降給食費の無償化事業など，子育てを行う家庭に寄り添った手厚い支援があるので，コロナ禍で影響を受けているご家庭などはとても助かると思います。

・栄町には，世界的に問題になっているヤングケアラー（※３）のお子さんはいますか。ヤングケアラーの定義にあてはまるご家庭のお子さんは，その家庭環境で生活をしているので，自

身がヤングケアラーだということに気づいていないことが多く，家族のケアや家事などで学校生活や勉強などにも支障がでてくると思います。子どもたちの様子について気をつけて見ていただければと思います。

・新型コロナウイルス感染症の拡大前は，子どもたちは，ふれあいプラザなどに行く機会がありましたが，今は遊びに行く場所がなかったりします。家に籠ってしまうと子どもの様子がわからなくなります。周りの大人たちが子どもの状況に早く気づいてあげられることがよいのですが，ヤングケアラーやネグレクト（※４）の線引き，そうした家庭との関わり方，行政との連携など難しい問題だと思います。

（※３）ヤングケアラー……法令上の定義はないが，一般に，本来大人が担うとされている家事や家族の世話などを日常的に行っている子どものこと。

（※４）ネグレクト……幼児・児童などに対し，その保護，世話，養育，介護などを怠り，放任すること。

学識経験者からの意見を受けた今後の取組について

学校教育課より

【施策名：特色ある学校づくりの支援】

１．「成果指標及び実績」の指標「児童生徒へのアンケート」実績値について

各校においては，４・５月に臨時休業になった授業時数を取り戻し，標準時数を確保しながら，児童生徒の学力の保障に向け，全力を尽くしてきました。そうした中，学校行事については，実施の有無，実施方法など様々な検討を行いながら，行うこととしましたが，どうしても例年よりも縮小せざるを得ない状況となりました。コロナ禍の中，児童生徒にとって，自主的・自立的に取組み，かつ，児童生徒同士のコミュニケーションを図るような取組について，十分行えなかったことが，目標値に比べて低い実績になったと考えます。

今後は，文部科学省の方針により，一斉での臨時休業はできるだけ行わないこととされたこともあり，各校においても，感染症対策に十分配慮しながら，様々な教育活動を実施し，児童生徒が，「将来に対するビジョンを持つことができる」ような支援をしていくよう考えます。

２．学校と地域の方との学びに係る協働について

教育委員会では「地域人材活用事業」として，学校での様々な活動に対し，地域住民の皆様のお力を借りし，様々な体験的な学習を実施しているところです。一例をあげますと，稲作体験，ドラまめ栽培体験，お琴体験，岩屋古墳・龍角寺見学などを行っているところです。

令和２年度は，これらの体験学習については，感染症拡大防止の観点から，残念ながら中止とすることが多かったと聞いています。

今後は，各校や生涯学習課と連携を図りながら，更なる人材を発掘し，子どもたちのよりよい学びに結び付けていくような体験活動・学習が実施できるよう取り組んでまいります。

３．修学旅行等の行事中止時における保護者への周知について

修学旅行の実施等については，事前に保護者アンケートを取ったり，保護者会を開いたりするなど，各校において，該当学年の保護者の皆様と丁寧に共通理解を図りながら実施の有無を決定してきたと聞いています。また，その他の行事についても，感染症拡大防止を念頭に置きながら，実施の有無や実施方法について検討し，文書等で保護者の皆様にご理解をいただいていると聞いています。

今後も，引き続き，丁寧な対応ができるよう各校へ指導してまいります。

【施策名：きめ細かな学校教育の推進】

１．「成果指標及び実績」の指標「教職員へのアンケート」実績値について

令和２年度は，感染症拡大防止の観点から，町主催の研修会を中止することが多く，小中連携に係る，プロジェクト会議や小中生徒指導会議についても中止としたため，町内小中学校の教職員が会しての会議等を行うことができず，連携を十分に図ることができませんでした。中学校においては，目標値に比べて低い実績となりました。しかし，各校においては，小中学校のつながりを意識しながら，「新しい生活様式」の中，児童生徒の学習支援や生徒指導支援を行うことができたと考えます。

今後は，町内小中学校教職員の会する各研修会等において，小中の連携を図りながら共通認識の下，児童生徒の指導・支援にあたることができるよう取り組んでまいります。

２．ゆうがく館の土曜日開館における利用状況について

令和３年４月より，通所する児童生徒・保護者の皆様に開館日時についてのアンケートを実施し，土曜日を開館しています。常時，通所している子どもは１名です。通所している全てのお子さんにお知らせしておりますので，２名になることもあります。平日の月曜日が休館日となっているため，土曜日に通所する児童生徒については，各校における出席日数に入れているところです。

【施策名：学力向上の推進】

１．「成果指標及び実績」の指標「授業がわかる児童生徒の割合」実績値について

新型コロナ感染症拡大の影響による臨時休業期間が，令和２年度は２ヶ月間（４月・５月）ありました。子どもたちの学習に取り組む姿勢と１年間の授業日数の確保のため，先生方も工夫を行った上で子どもたちのやるべきことを身につけさせながら集中的に取組を行った結果によるものと考えます。

２．「中学生海外派遣事業」の中止に伴う対応について

学校教育課では，中学生の英検受験への補助制度を実施しているところです。「中学生海外派遣事業」により，英語検定の受験意欲も高まることと考えておりますが，残念ながら，昨年度，今年度と新型コロナウイルス感染症の影響で，「中学生海外派遣事業」は実施できませんでした。今後の事業実施を見越し，多くの生徒さんが英検を受験し，積極的に「中学生海外派遣事業」に応募していただけるよう，「英検助成」のより一層の周知を図っていきたいと考えます。

【施策名：教育行政の推進】

１．ヤングケアラーについて

現在，教育委員会ではヤングケアラーについて，全町的な調査は行っておりません。しかし，そういった事例が見受けられる場合は，スクールカウンセラーさん，教育相談担当の先生方に，報告をお願いしております。また，福祉・子ども課には，民生委員・児童委員さんに情報提供をお願いしています。学校部門と福祉部門で連携を図り，取り組んでいけるよう周知をしているところです。

基本方針　（Ⅲ）　生きがいが育める学習やスポーツ環境づくりを推進します。

生涯学習やスポーツを通じて，心身ともに健康で生きがいのある生活と心のかよう地域社会をつくるとともに，地域の教育力を活かした子どもたちの健全育成を推進します。

【施　策　名】

・生涯学習機会の充実　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ２５～Ｐ２６
・生涯学習施設の充実　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ２７
・スポーツ環境づくりの推進・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ２８～Ｐ２９

○学識経験者の意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ３０～Ｐ３１
○学識経験者からの意見を受けた今後の取組について・・・・Ｐ３２～Ｐ３３

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名	生涯学習機会の充実
現状と課題	・家庭や地域の教育力の低下が指摘されており、次代のまちづくりを担う子どもたちが豊かな人間性を育むことができるよう、学校・家庭・地域は、「学び」や「育ち」を支えるためのそれぞれの役割と責任を自覚し、相互の連携と協力のもとに地域全体が積極的に関わっていく体制を構築する必要がある。 ・子どもたちは、少子化の影響から、異年齢の子どもと「群れて遊ぶ」機会が減少するとともに、核家族化などにより高齢者と日常的にふれあうことが少なくなる等、地域との絆や社会性を育むための機会が少なくなっている。 ・趣味や関心に基づく個人的な学習活動のみならず、社会的な課題に取り組む学習を支援するため、民間事業者等の活動のみでは得られない学習機会や情報を、行政が積極的に提供する必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症予防への対応が求められている。

施策の情報整理

目指す成果	多様化する学習ニーズに対応し、誰もが参加しやすい学習環境づくりを進めることによって、各種講座などの参加者や図書室の利用者が増加している。

成果指標及び実績

指標	教育振興基本計画策定時の現状値（平成30年度）	令和2年度	令和3年度	令和4年度 教育振興基本計画最終年度	目標数値の説明
生涯学習事業参加者数	3，352人	目標値 3,480人	目標値 3,510人	目標値 3,540人	生涯学習事業（各種講座、放課後教室、地域ふれあい交流事業、体験学習事業、青少年相談員事業、家庭教育学級、読書教育）の参加者数及びボランティアスタッフ数
		実績値 977人	—	—	
ふれあいプラザ利用の学習サークル数	59団体	目標値 60 団体	目標値 61団体	目標値 61団体	ふれあいプラザさかえを拠点に活動する学習サークル等の登録団体数
		実績値 56 団体	—	—	
図書室利用者数	18，007人	目標値 18,300人	目標値 18,400人	目標値 18,500人	貸出者数（個人・団体）、閲覧者数、インターネット利用者数
		実績値 13,399人	—	—	
図書室利用の貸出し蔵書数	57，622冊	目標値 58,300冊	目標値 58,600冊	目標値 58,900冊	図書室の蔵書の貸出し延べ冊数
		実績値 59,003冊	—	—	

施策全体の達成度（★★★）	—	目標を達成（100%） ★★★ 目標をほぼ達成（80%以上） ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —	施策の事業費（上段：最終予算）（下段：決算額）	9,389 千円 9,077 千円

達成度の理由	・新型コロナウィルス感染症拡大防止により事業中止の影響はあったが、数少ない事業においての参加者の満足度アンケートは高い結果が得られている。 ・コロナの影響により休館を余儀なくされたが、自粛要請や学校の休業などによる在宅時間を有意義に過ごしてもうらうため、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、蔵書数を増やし読書環境の充実を図ったことから、図書室の利用人数は想定よりも減少はしなかった。 ・上記のとおり成果はあったものの、新型コロナウイルス感染症の影響による各事務事業の制限が多く、成果指標と実績値が機能しないことから「現時点では判定できない」と判断した。
設定成果指標以外に現れた成果の説明	・コロナ禍により様々な制限の中、万全な感染対策を施し緊急事態宣言の解除後にはふれあい推進委員や青少年相談員などが中心となり青少年関係団体の活動が活発に展開されている。 ・放課後ふれあい教室は、令和2年度は運営スタッフにより協議した結果、子どもたちの安全確保が最優先と考え中止せざるを得なかった。 ・いきいき塾さかえは、ふれあいプラザさかえ利用サークルが講師を務めるなど、日ごろの学習成果を発揮できた。
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	・地域と学校との連携協力体制や家庭と地域の連携した安全安心の確保が求められている。 ・子どもたちの他校や異学年との交流機会の提供と活動支援が求められている。 ・多様な学習情報の提供が求められている。 ・レファレンスサービス（利用者の調べ物の手伝い）の充実と利用の促進のための情報発信が求められている。 ・新型コロナウイルス感染症予防への対応が求められている。
住民との協働や他課の事業との連携	・地域学校協働本部、社会教育活動支援事業、ドラム自然楽校等体験事業、その他地域教育関連事業は、ドラム自然楽校実行委員会、青少年相談員連絡協議会、小学校区ふれあい推進委員会、ふれプラ利用サークル、成人式実行委員会、地域のボランティア等との連携及び協働により実施している。

2. 事務事業の取組

（単位:千円）

事務事業名	令和2年度の取組実績	事業の評価（取組の課題及び今後の課題への対応）	事業費	
①いきいき塾さかえ事業	○いきいき塾さかえ講座（延べ61人） ・木工教室（年4回・延べ参加者24人） ・国際理解講座（中止） ・浴衣着付け教室（中止） ・キッズ教室（延べ参加者37人） ・切り絵（9人） ・色鉛筆画（8人） ・書初め（20人） ○社会教育委員会議（8月・2月）、印旛郡市社会教育振興大会（書面）等 （決算197千円）	【取組への課題】 ・講師を依頼しているボランティアの不足及び高齢化が過去からの課題となっており、新たなボランティアの発掘と事業内容の見直しが必要である。	H30決算	286
			R元決算	173
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・住民ニーズの把握をすることと社会情勢を的確に捉え、事業内容に反映させ町民にとって有意義な講座を開催するとともに、新たなボランティアの発掘を行う。	R2予算	278
			R2決算	197

②	ドラム自然楽校等体験学習事業	○自然体験活動の推進「ドラム自然楽校」 ・開会式（9月） ・田植え（中止） ・ドラゴンカヌー（9月） ・稲刈り（中止）、コスプレ（中止） ・どらまめ収穫（10月） ・脱穀・籾摺り・新米試食（中止） ・親子凧揚げ・閉校式（中止） （2回：延べ参加者55人、スタッフ46人） （決算額　50千円）	【取組への課題】 ・例年ほぼ同じ内容での体験活動となってきているためスムーズに運営はできているが、今以上に地域に根ざし地域住民を巻き込めるような事業を検討し、子どもたちが地域のことを知る機会を提供できていない。	H30 決算	80
				R元 決算	80
			【課題を踏まえ今後の対応】 ・令和3年度については、交付金を活用し備品等を整備し、計画的かつ継続性が保てるよう飽きのこない自然体験活動を実施する。	R2 予算	80
				R2 決算	50
③	図書室運営事業	○資料の収集提供・レファレンスサービス等 ・購入:1，510冊／寄贈508冊 ○展示・貸出コーナー ・一般書・児童書コーナー：10回設置 ○学校図書室の支援 ・各学校への貸出：31件・460冊 ○絵本の読み聞かせ会（中止） ○夏のおはなし会（中止） ○人形劇公演（中止） ○クリスマスおはなし会（中止） ○夏休み図書室スタンプカードの発行 ・100枚配布44名達成 ○読書手帳の発行 ・150枚配布 ○本の福袋 ・50セット配布 ○図書用滅菌機購入 （決算　6，827千円）	【取組への課題】 ・コロナ禍において利用制限（滞在時間、利用人数）が解除されていない環境における図書の貸し出し冊数及び利用人数の減少を回復させることが課題である。	H30 決算	5,939
				R元 決算	5,486
			【課題を踏まえ今後の対応】 ・広報さかえに話題となっている本を掲載し、図書室の利用者数を増加させるとともに読書習慣を定着化させ活字離れの解消を図る。	R2 予算	6,828
				R2 決算	6,827
④	学校支援本部事業	○放課後ふれあい教室事業 【事業費】 0円 平日　・布鎌小（中止） 　　・安食小（中止） ○地域学校協働本部事業 【事業費】 463千円 ・安食小学校区ふれあい推進委員会 ・竜角寺台小学校地域学校協働本部 活動日数　180日間 延べボランティア500人 ○家庭教育支援事業 【事業費】 1，540千円 家庭教育支援員　8人 活動日数　延べ30日間 ○地域学校協働推進員　意見交換会 実施日：2月 回数：　1回	【取組への課題】 ・全ての学校に地域学校協働本部の立ち上げを計画しているが1校のみとなっている。 ・地域活動協働推進員（コーディネーター）の発掘が課題である	H30 決算	2,672
				R元 決算	4,041
			【課題を踏まえ今後の対応】 ・放課後ふれあい教室や家庭教育学級などの運営スタッフが不足してきていることは明白であることから、広報紙やホームページなど情報媒体を効果的に活用し、地域住民が事業内容に興味をもってもらえるような広報活動を実施する。	R2 予算	2,203
				R2 決算	2,003
合　計				H30 決算	8,977
				R元 決算	9,780
				R2 予算	9,389
				R2 決算	9,077

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名	生涯学習施設の充実
現状と課題	・ふれあいプラザさかえの経年劣化による施設の不具合が多く発生しており、その解消が望まれている。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止に向け、新しい生活様式を取り入れつつ利用者の安全に配慮しながらの利用方法や施設の改修が望まれている。 ・ふれあいプラザさかえは、町の避難所の指定を受けていることから、近年、多発している自然災害への対応が求められている。

施策の情報整理

目指す成果	利用者が生涯学習施設を安全安心に利用できるよう、必要な修繕や改修工事が計画的に行われている。

成果指標及び実績

指標	教育振興基本計画策定時の現状値（平成30年度）	令和2年度	令和3年度	令和4年度 教育振興基本計画最終年度	目標数値の説明
ふれあいプラザさかえの改修数	1箇所	目標値 1箇所	目標値 1箇所	目標値 1箇所	栄町公共施設等総合管理計画（ふれあいプラザさかえ個別施設計画）に基づく改修工事
		実績値 2箇所	—	—	

施策全体の達成度（★★★）	★★★	目標を達成（100%） ★★★ 目標をほぼ達成（80%以上） ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —	施策の事業費（上段：最終予算）（下段：決算額）	43,081 千円 38,169 千円

達成度の理由	利用者の利便・安全に配慮しつつ、計画的に改修工事を実施した。また、工事日を休館日に設定するなど利用者の利便性を損なわないようにしたことから「目標を達成」と判断した。
設定成果指標以外に現れた成果の説明	施設の経年劣化による修繕箇所が多く発生し、配分された予算内で措置をしている。
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	・ふれあいプラザさかえは、町の避難所の指定を受けていることから、近年、多発している自然災害への対応が求められている。 ・経年劣化による設備等の不具合が発生することが予測される。
住民との協働や他課の事業との連携	・総務課（安全対策推進室）、環境協働課(住民活動支援センター)、福祉・子ども課(子育て包括支援センター) ・住民活動団体が、ふれあいプラザさかえ敷地内の除草作業及び植木の剪定や花壇の整備を行っている。

2. 事務事業の取組

（単位:千円）

事務事業名	令和2年度の取組実績	事業の評価（取組の課題及び今後の課題への対応）	事業費	
① ふれあいプラザ施設大規模改修事業	○ふれあいプラザさかえ集中管理時計更新工事（決算 649千円） ○ふれあいプラザさかえ文化ホール排煙設備更新工事（決算 1，606千円） ○その他修繕（決算 1，403千円）	【取組への課題】 ・「ふれあいプラザさかえ個別施設計画」に基づき計画的に改修を進めているが、経年劣化による設備の故障が多く発生している。 ・効率的かつ効果的な予算執行に努めたいが、施設の経年劣化による突発的な修繕等が発生した際の対応が遅れてしまい、利用者サービスの低下につながる。	H30決算	78,598
			R元決算	15,599
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・「ふれあいプラザさかえ個別施設計画」に基づき計画的に改修を検討する中で、優先順位を見極め計画的に改修を遂行する。 ・利用者の安全面の確保に努め、設備の不具合の解消を図る。	R2予算	3,775
			R2決算	3,658
② ふれあいプラザ施設維持修繕事業	○ふれあいプラザさかえの管理・運営を実施 ・施設総合管理や設備保守点検、特殊建築物定期報告調査等を委託 ・光熱水費（電気・ガス・上下水道）の支払い ・窓口業務の会計年度任用職員の調整 ・文化ホール業務委託（舞台・音響・照明のスポット委託） （決算 34，511千円）	【取組への課題】 ・昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止へ向けた取組が求められている。 ・避難所としての側面もあり、多発する自然災害への対応が求められている。	H30決算	54,405
			R元決算	50,368
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・新型コロナウイルス対策として、新しい生活様式に対応した利用形態に移行するとともに、徹底した衛生管理を実施した施設管理に努める。 ・町総務課安全対策推進室と連携をとり、速やかに避難所を開設できる準備を進める。	R2予算	39,306
			R2決算	34,511
合計			H30決算	133,003
			R元決算	65,967
			R2予算	43,081
			R2決算	38,169

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名	スポーツ環境づくりの推進
現状と課題	スポーツイベントを中心に町民が気軽にスポーツを楽しめる機会を増やしていこうと試みている。 少子高齢化の影響もあり、既存のスポーツ団体の活動が衰退傾向にあるので、スポーツ団体の活動の活性化が今後の大きな課題である。
施策の情報整理 目指す成果	スポーツや運動に親しむきっかけをつくるために気軽に取り組めるスポーツを推進することによって、スポーツや運動にふれる機会が提供されている。また、利用者が体育施設を安全安心に利用できるよう、必要な修繕や改修工事が計画的に行われている。

成果指標及び実績

指標	教育振興基本計画策定時の現状値（平成30年度）	令和2年度	令和3年度	令和4年度 教育振興基本計画最終年度	目標数値の説明
スポーツ教室・大会等参加者数	7，664人	目標値 7,740人	目標値 7,770人	目標値 7,800人	スポーツ教室や大会等の参加者数
		実績値 337人	—	—	
体育施設の利用者数	82，998人	目標値 83,100人	目標値 83,150人	目標値 83,200人	スポーツ施設及び学校体育施設の利用者数
		実績値 35,772人	—	—	
体育施設の改修数	1箇所	目標値 1箇所	目標値 1箇所	目標値 1箇所	学校施設を除く体育施設の改修工事数
		実績値 1箇所	—	—	

施策全体の達成度（★★★）	—	目標を達成（100%） ★★★ 目標をほぼ達成（80%以上） ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —	施策の事業費（上段：最終予算）（下段：決算額）	19,815 千円 18,337 千円

達成度の理由	・スポーツ大会・軽スポーツ教室参加者数については、新型コロナウイルス感染症の影響により、さかえリバーサイドマラソン、印旛郡市民体育大会、軽スポーツ教室などが中止となり、目標を達成することができなかった。しかしながら、さかえスポーツフェスタと健康づくり事業の運動教室については、緊急事態宣言が解除されていた期間に、スポーツ庁からの感染防止対策に関するガイドラインに従い、万全な対策で実施することができた。特に、さかえスポーツフェスタは多くのオリンピックアスリートを講師に招いたことで、子どもたちのスポーツへの関心や気運が高まった。また、健康づくりの運動教室は、健康介護課との事業と共有した健康ポイント付与の実施により、スポーツを楽しむきっかけづくりができた。 ・体育施設の利用者数については、新型コロナウイルス感染症の影響と改修工事により利用を停止していた期間があることから、目標を達成することができなかった。 ・体育施設の改修については、老朽化していた房総のむらテニスコート改修工事を新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を利用して実施した。 ・上記のとおり成果はあったものの、新型コロナウイルス感染症の影響による各事務事業の制限が多く、成果指標と実績値が機能しないことから「現時点では判定できない」と判断した。
設定成果指標以外に現れた成果の説明	・体育協会各専門部の活動支援を行うことにより、各専門部の競技力の強化につながり、健康と体力向上の促進を図ることができた。
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	・スポーツに関心がない方や普段から体を動かす機会が少ない方などへ、運動やスポーツへの関心度を高め運動を習慣化させ健康増進や介護予防への意識改革を図る。世代ごとに体調管理など健康増進につなげることが必要である。 ・体育協会やスポーツ少年団の会員数の減少による組織の弱体化を防ぐため、新規会員の勧誘や新たな人材の発掘が必要となっている。また、スポーツによる交流人口を生かした地域活性化が望まれている。
住民との協働や他課の事業との連携	・スポーツ推進委員・体育協会・住民活動団体・順天堂大学等の団体と連携し各種の教室やスポーツ大会を開催することは従前通り継続していく。また、スポーツによる健康づくり事業も引き続き継続し、ライフステージに応じた運動、スポーツ参加者へのきっかけづくりや場所の提供によりスポーツ実施者を増やすとともに健康長寿社会の形成を進めていく。

2. 事務事業の取組

（単位:千円）

	事務事業名	令和2年度の取組実績	事業の評価（取組の課題及び今後の課題への対応）	事業費	
①	スポーツフェスタ実施事業	○子どもたちが、スポーツへの関心や気運が高まることによって、オリンピックなどで活躍するなど高い目標を持つことができるようにスポーツフェスタを実施した。 【さかえスポーツフェスタ（参加：合計106名）】 ・バレーボール教室 （中学生24名） ・卓球教室 （中学生35名） ・バスケットボール教室 （中学生47名） ・陸上教室 （中止）	【取組への課題】 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、人数制限をしながらの実施となった。実施にあっては感染対策を万全に準備する必要がある。 ・アスリートとの交流によって参加者がスポーツへの関心や気運が高まるよう、アスリートとの十分な準備が必要とされる。また、スポーツへの関心をさらに高めるためには、小学生の参加も検討する。 ・スポーツ振興くじ補助金を活用したスポーツフェスタは引き続き実施する。	H30決算	2,262
				R元決算	2,096
			【課題を踏まえ今後の対応】 ・スポーツ庁のスポーツ活動に関する感染拡大予防ガイドラインを活用し感染対策を万全に準備する。 ・参加者のレベルに合った練習内容となるように、参加者の現状を把握しアスリートとの十分な打ち合わせを行う。小学生と中学生が合同で実施できるよう団体の指導者、アスリートなど関係者と十分な協議を行う。 ・スポーツ振興くじ補助金を活用しトップアスリートを招いてのスポーツフェスタは引き続き開催する。	R2予算	2,332
				R2決算	1,786
②	スポーツ団体活動支援事業	○各種スポーツの競技力の向上及び町民にスポーツを普及し、健康と体力向上の促進を図るため、スポーツ団体の支援を行った。 ・県・郡市民体育大会 （中止） ・印旛駅伝競走大会 （中止） ・さかえオープンゴルフ大会 （中止） ・体育協会各専門部大会等 （中止：陸上、バレーボール卓球、野球、弓道、硬式テニス、相撲、スポ少剣道） （一部実施：ソフトボール、柔道、ソフトテニス、サッカー、ゲートボール、居合道、スポ少サッカー、スポ少野球、スポ少ミニバス） ・栄・銚子センチュリーライド （中止）	【取組への課題】 ・新型コロナウイルス感染症の感染対策について、スポーツ団体に周知し対策を徹底させる必要がある。 ・体育協会各専門部の登録人数の減少や高齢化により衰退・減少方向にあることから、新規会員の勧誘や新たな人材を発掘して、スポーツ人口の底辺を広げていく必要がある。	H30決算	2,794
				R元決算	2,420
			【課題を踏まえ今後の対応】 ・スポーツ庁のスポーツ活動に関する感染拡大予防ガイドラインや日本スポーツ協会のスポーツイベント感染防止対策について必要な情報を周知する。 ・体育協会各専門部の活動のPRとして町広報を活用する。また、スポーツ推進員による軽スポーツ教室において、スポーツ団体と連携して活動を紹介し、スポーツ団体の新規会員の勧誘や新たな人材の発掘につなげていく。	R2予算	2,575
				R2決算	2,043

③	スポーツによる健康づくり事業	○スポーツを通して健康なまちづくりを推進するため、ライフステージに応じた運動、スポーツ参加へのきっかけづくりや場所を提供した。 【運動教室】 （参加：合計231名） ・軽スポーツ（8回中2回実施：35名） ・体力調査会（2回中1回実施：25名） ・健康ウォーキング教室（50名） ・いきいき広場 リンパマッサージ（2回中1回実施：18名） ヨガ （2回中1回実施：19名） ピラティス（2回実施：36名） 椅子体操（2回中止） ノルディックウォーキング（1回実施：29名） 骨盤底筋エクササイズ（1回実施：19名） ・ちびっこ相撲体験教室（中止） ・小学生大相撲トーナメント（中止）	【取組への課題】 ・新型コロナウイルスの影響により、中止や人数制限をしながらの実施となった。実施にあっては感染対策を万全に準備する必要がある。 ・健康増進の意識付けを向上させ、運動教室の参加を促す必要がある。	H30決算	1,772
				R元決算	0
			【課題を踏まえ今後の対応】 ・軽スポーツ教室においては、ここ数年実施していた種目から変更し新たなスポーツの体験の機会となるように、スポーツ団体と連携して活動を紹介する。 ・いきいき広場の担当課である健康介護課と連携し健康増進や介護予防のための教室を実施していく。	R2予算	500
				R2決算	348
④	社会体育館改修事業	○安全かつ快適に施設を利用できるように、社会体育施設の維持管理を行った。 ・水と緑の運動広場（テニスコート・野球場・多目的広場）（12，330人） ・房総のむら（テニスコート・多目的広場） （7，740人） ・町民体育館・学校体育館 （16，000人） ・町民グラウンド（野球・サッカー） （8，280人） ・町民プール一般開放 （中止）	【取組への課題】 ・安全に利用できるよう、体育施設を適正に管理する必要がある。	H30決算	60,276
				R元決算	8,844
			【課題を踏まえ今後の対応】 ・体育施設の適正な管理のため、点検・整備を定期的に実施する。 ※予算・決算はスポーツ環境整備事業費を計上しています。	R2予算	3,738
				R2決算	3,490
⑤	リバーサイドマラソン実施事業	○新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。 ・さかえリバーサイドマラソン ハーフ・10km・5km・2km・親子・ウォーキング 申込者数 令和3年2月中止 令和2年2月実施 （3，255名）（参加者数 2，386名） （実行委員会決算：11，449千円） 平成31年2月実施 （3，672名）（参加者数 3，278名） （実行委員会決算：12，172千円） 平成30年2月実施 （3，216名）（参加者数 2，732名） （実行委員会決算：9，695千円）	【取組への課題】 ・新型コロナウイルスの影響により、中止となった。 ・参加者数を増加させるため、コースや運営体制の改善に努め、町の魅力を全面的にPRし町の活性化につなげていく必要がある。	H30決算	0
				R元決算	0
			【課題を踏まえ今後の対応】 ・コースや運営体制の改善に努め、ポスターやチラシ等の多くの情報媒体を利用して町の魅力をPRしていく。 ※予算・決算は、さかえリバーサイドマラソン実施事業運営費（参加費など）のため一般財源はありません。	R2予算	0
				R2決算	0
⑥	房総のむらテニスコート整備事業	○安全かつ快適に施設を利用できるよう、房総のむらテニスコート改修工事を実施した。 ・房総のむらテニスコート改修工事 （新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金活用）	【取組への課題】 ・房総のむらのテニスコートの適正な維持管理をする。	H30決算	0
				R元決算	0
			【課題を踏まえ今後の対応】 ・房総のむらのテニスコートを定期的に点検し、適正な維持管理を行う。	R2予算	10,670
				R2決算	10,670
合　計				H30決算	67,104
				R元決算	13,360
				R2予算	19,815
				R2決算	18,337

学識経験者の意見（基本方針（Ⅲ）について）

【施策名：生涯学習機会の充実】

・「施策全体の達成度」が「現時点では判定できない」ということですが，残念に思います。なぜなら，「設定成果指標以外に現れた成果の説明」の部分で，「青少年関係団体の活動が活発に展開されている」ことや事務事業の取組では，たくさんの事業を展開されています。中止になった事業もありますが，実施されたものもあり，皆さん，コロナ禍で頑張っていらっしゃるので，「施策全体の達成度」は，別の表現をされればよかったのではないかと思いました。

・事務事業③「図書室運営事業」について，学校図書館に続き，ふれあいプラザ図書室でも蔵書が増えてよかったと思います。新しい図書がたくさんあるとまた図書室に足を運びたくなると思います。蔵書を増やしたり，きれいに展示されていたり，色々と努力をされていることが目に見えてわかるので，図書室にたくさんの方が来てくれるとよいと思います。家で買った本は，一度読み終わると次に読む機会もあまりなく眠ってしまっている状態です。新着の本がすぐ読めて，返すことができる図書館のメリットについて皆さんに知ってもらわないともったいないと思います。

【施策名：生涯学習施設の充実】

・ふれあいプラザには長年通っていますが，建物の他にも設備の劣化も避けられないと思います。陶芸教室に参加させていただいていますが，窯や教室のブラインド修理など設備の維持に対応されていて感謝しています。予算との兼ね合いもありますが，今後も利用者の利便性を優先して，維持保全に努めていただければありがたいと思います。

・ふれあいプラザは災害時の避難所に指定されていますが，避難所の開設時にはシャワーの他にもお風呂を利用したいという方の要望も多いのではないのかと思います。予算が関係してくることなのですが，使えるようにしてほしいと思います。

・悠遊亭浴室のシャワーは何台ありますか。通常は，１日数人ほどしか利用されないかもしれませんが，災害時に避難所が開設された場合はシャワーやお風呂がないと困る方もいると思います。

【施策名：スポーツ環境づくりの推進】

・「スポーツ環境づくりの推進」の施策についても，新型コロナウイルス感染症の影響により，様々なイベントができなかったので残念に思います。

・東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催され，アスリートの活躍が私たちの心を強く押し上げたと思います。コロナ禍ですが，スポーツの拡大には絶好の機会だと思います。

・パラリンピックでは，障害をお持ちの方の活躍には目を見張るものがありました。パラリンピックで見たボッチャという競技は，みんなで楽しめる競技です。町の政策審議会では，栄特別支援学校の校長先生とご一緒する機会があり，その会議の時もボッチャについて話がでました。ボッチャは高齢者や学校，障害をお持ちの方も一緒にできるスポーツです。スポーツ推進委員の方にボッチャを普及していただけたらと思います。

・白井市のスポーツ推進委員の方は，障害をお持ちの方へのスポーツの指導をされていると聞きました。そのような環境が整えば，みんなでスポーツを楽しむ空間ができ，スポーツ愛好家が増えていくかもしれません。ぜひ，進めていただきたいと思います。

・「成果指標及び実績」の指標に「スポーツ教室や大会の参加者数，体育施設の利用者など利用者の人数」を主に評価していますが，新型コロナウイルス感染症の影響により行事など制限を受けているので，こうした指標だと難しいところがあります。もう少し違う視点で成果を捉えるということも視野に入れてもらえるとよいと思います。例えば，この施策でいうと，事務事業をたくさん計画されているので，実施できた計画数について指標にすることもよいのではないかと思います。生涯学習課のみなさんがこれだけの事業を実施されているので，結果が表にでないということは残念に思います。

・安食小学校で実施しているボッチャに，ここ数年参加させていただいています。安食小学校だけでなく，他の小学校でも体験できるとよいと思います。また，子どもたちと障害をお持ちの方が一緒に交流を深める機会を作っていただくことで，子どもたちの障害をお持ちの方に対する理解力も深まると思うので，そういった行事も取り入れていただけたらと思います。

・「さかえスポーツフェスタ」では，子どもたちがアスリートに直接教えてもらえる貴重な機会です。子どももバレーボールを教えていただいたことがあるのですが，部活動への興味が湧いてきました。例えば，小学校はボッチャ，中学校ではスポーツフェスタなど継続できるものを取り入れていただくことで，子どもたちのやる気もレベルアップしていくと思いますので，このまま事業を継続していただきたいと思います。

学識経験者からの意見を受けた今後の取組について

生涯学習課より

【施策名：生涯学習機会の充実】

１．「成果指標及び実績」における「指標」の設定について

新型コロナ感染症拡大の影響を受け，各指標の事業が中止になったことにより，目標値に実績値が届いていないことから，本来であれば「目標を達成していない」ところですが，コロナ禍という状況の中，事業の実施が難しいことから，施策の達成度については「現時点では判定できない」ということにさせていただきました。今回，いただいたご意見を踏まえ，次期基本計画において検討させていただきたいと考えます。

【施策名：生涯学習施設の充実】

１．ふれあいプラザ悠遊亭浴槽の修繕について

悠遊亭の浴槽は，開館当初，浴槽を循環型で使用していましたが，窯や浴槽の水漏れにより使用できなくなりました。ご意見をいただきましたように，浴槽を利用されたいという方のお声もございましたが，町で検討を重ねた結果，改修は行わないという判断に至り，公衆浴場法の規定に基づき，保健所へ使用廃止について手続きを行いました。災害により避難所が開設された時には，シャワーが大浴場に５つ，小浴場に３つございますので，そちらで対応させていただきたいと考えております。

【施策名：スポーツ環境づくりの推進】

１．「成果指標及び実績」における「指標」の設定について

「生涯学習機会の充実」と同様に，新型コロナ感染症拡大の影響を受け，各指標の事業が中止になったことで目標値に実績値が届かないことから，本来であれば「目標を達成していない」ところですが，コロナ禍という状況の中，事業の実施が難しいことから，施策の達成度については「現時点では判定できない」ということにさせていただきました。今回いただいたご意見を踏まえ，次期基本計画においては，新型コロナ感染症などの予測がつかない事態に影響されることのない指標の設定について検討させていただきたいと考えます。

２．スポーツ推進委員による「ボッチャ」の普及について

スポーツ推進委員は，今までグラウンドゴルフ，スポーツ吹き矢，ショートテニスなどの軽スポーツの普及に力を入れて活動してきたことにより，それぞれのスポーツ団体が作られ現在も生涯に渡って楽しめるスポーツとして活動しています。

今回，パラリンピックで注目された「ボッチャ」の普及につきましては，障害の有無にかかわらず，子どもから高齢の方まで幅広い方が楽しめるスポーツとして認識しておりますので，軽スポーツ教室の種目のひとつとして実施していきたいと考えています。また，子どもたちと障害をお持ちの方が，ボッチャを通して交流を深める機会を関係各課と検討していきたいと思います。

学校教育課より

１．小学校における「ボッチャ」の普及について

「ボッチャ」を体験したり，障害のある方との交流を深めたりすることは，子どもたちの障害をお持ちの方に対する理解力を深める上で，非常に有効な手段であると考えます。安食小

学校で，体験会があるとお聞きしましたので，こういった取組を町内の小中学校へ広げ，多くの学校で，体験ができるよう支援してまいりたいと考えます。

基本方針　(Ⅳ)　地域に根ざした芸術・文化の育成と文化財等の保護・活用を図ります。

地域に根ざした芸術・文化の育成と文化財等の保護・活用を図り，個性豊かで潤いのある地域文化の醸成を推進します。

【施　策　名】

・芸術文化活動の支援　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ３５～Ｐ３６
・文化財等の保護と活用　・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ３７～Ｐ３８

○学識経験者の意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ３９
○学識経験者からの意見を受けた今後の取組について・・・・Ｐ４０

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名	芸術文化活動の支援
現状と課題	・既存サークルの高齢化等が進んでいる。 ・各サークル等、文化芸術団体がより活発に活動できるよう、活動の啓発や成果発表の支援が必要である。 ・社会環境の変化により、余暇時間を利用した個人の趣味や学習活動が増加し、ふれあいプラザさかえに来れば、いつでも文化芸術の情報が入手でき、また多くの文化芸術にふれられる機会が望まれている。 ・新型コロナウイルス感染症予防への対応が求められている。

施策の情報整理

目指す成果	芸術文化活動を活性化するために町民の方々に文化芸術にふれる機会が提供されているとともに、活動者に活動の成果を発表する機会が提供されている。

成果指標及び実績

指標	教育振興基本計画策定時の現状値（平成30年度）	令和2年度	令和3年度	令和4年度 教育振興基本計画最終年度	目標数値の説明
芸術文化の公演数	14公演	目標値 15公演	目標値 16公演	目標値 16公演	文化ホール利用の音楽、演劇、舞踊、映画などの公演数
		実績値 6公演	—	—	
文化祭参加団体数	49団体	目標値 52団体	目標値 53団体	目標値 54団体	ふれあい文化祭の団体、個人の参加者数
		実績値 0団体	—	—	

施策全体の達成度（★★★）	—	目標を達成（100%） ★★★ 目標をほぼ達成（80%以上） ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —	施策の事業費（上段：最終予算）（下段：決算額）	9 千円 9 千円

達成度の理由	・芸術文化公演数については、新型コロナウイルス感染症予防のため文化ホールの利用を休止したことにより公演数については目標を達成できなかった。また、3月に予定していた文化祭についても、同様の理由により令和元年度に続き中止せざるを得なかった。 ・上記のとおり、新型コロナウイルス感染症の影響による各事務事業の制限が多く、成果指標と実績値が機能しないことから「現時点では判定できない」と判断した。
設定成果指標以外に現れた成果の説明	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、文化ホールの利用を4月から9月末日まで休止したが、再開後は国・県からの利用に関するガイドラインに則り利用可能とし、7件（1，122人）が利用した。
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	各サークル等、文化芸術団体の会員の高齢化や個人の趣味や学習活動が多岐にわたり、団体会員の確保や活動の維持が課題となっている。
住民との協働や他課の事業との連携	ふれあいプラザ利用サークル連絡会、環境協働課

2. 事務事業の取組

（単位:千円）

事務事業名	令和2年度の取組実績	事業の評価（取組の課題及び今後の課題への対応）	事業費	
①自主文化事業実施事業	○自主文化事業 ・ホールピアノ一般開放：春（中止） ・ホールピアノ一般開放：秋（3日間・18組43人） ・スプリングフェスタ（中止） ・クリスマスジャズコンサート（中止）	【取組への課題】 ・新型コロナウイルス感染症拡大対策として、新たな生活様式に則った利用形態に移行し、衛生面における利用者の安全性の確保が課題となる。 ・町民がどのような文化芸術に興味があるのか、自主文化事業実施の際にアンケートを行う予定であった。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響による事業の中止により実施することができなかった。	H30決算	9
			R元決算	9
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・文化ホールの利用に関する新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインに沿った適正な予防対策や管理運営を広く周知し、利用者の動向を図り利用者の増加につなげる。 ・高校、関係団体等の協力を得てのコンサートや映画会を開催していくとともに、アンケート等を行いニーズの把握に努めていく。 ・効果的なPRを行い自主文化事業を知っていただき、来館に結び付ける。 ・文化芸術振興事業として、ふれあいプラザさかえ事業基金を活用し、企画・実施していく。	R2予算	9
			R2決算	9
②芸術文化公演鑑賞の支援	○貸館事業 ・合唱コンクール、吹奏楽発表会、ダンス発表会、音楽会等（6公演） ・令和2年度文化ホール利用件数6件・1079人	【取組への課題】 ・新型コロナウイルス感染拡大対策として、新たな生活様式に則った利用形態に移行し、衛生面における利用者の安全性の確保が課題となる。	H30決算	0
			R元決算	0
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・令和3年度は新型コロナウイルスのワクチン接種会場として利用されるため、貸館として文化ホールは利用できなくなるが、接種完了後、再開に向けた準備及び利用に関する広報活動を実施する。	R2予算	0
			R2決算	0

③	芸術文化団体活動の支援	○サークル団体等の日頃の活動成果を発表する機会として「ふれあい文化祭」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。 ○1階展示ロビーにおいて、展示ケースやミニギャラリーによるサークルの案内、作品展示を随時展開している。 （令和2年度展示件数：22件）	【取組への課題】 ・各サークルの会員の高齢化や会員の確保に苦慮している。	H30 決算	0
				R元 決算	0
			【課題を踏まえ今後の対応】 ・高齢化は止むを得ない事象であることから、今後は高齢者の生きがいややりがいに繋がるようなサークル活動を紹介・PRし、参加人数の増加につなげる。	R2 予算	0
				R2 決算	0
合　計				H30 決算	9
				R元 決算	9
				R2 予算	9
				R2 決算	9

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施策名	文化財等の保護と活用
現状と課題	本町の貴重な文化財を保存し未来へ継承するとともに、この活用を図っていく必要がある。そのため、文化財等の展示・公開事業、町史編さん事業および文化財サポーター育成の推進が求められている。
施策の情報整理 目指す成果	文化財等の保護と活用が図られるよう、多くの参加者による文化財等の展示・公開が行われているとともに、文化財等を説明できる人材が育成されている。

成果指標及び実績

指標	教育振興基本計画策定時の現状値（平成30年度）	令和2年度	令和3年度	令和4年度 教育振興基本計画最終年度	目標数値の説明
指定文化財公開事業の参加者数	500人	目標値 750人	目標値 850人	目標値 1,000人	龍角寺古墳群、岩屋古墳など文化財のガイド受講人数
		実績値 438人	—	—	
文化財サポーター数	11人	目標値 16人	目標値 18人	目標値 20人	町の文化財を説明できるボランティアの数
		実績値 16人	—	—	

施策全体の達成度（★★★）	★★	目標を達成（100%） ★★★ 目標をほぼ達成（80%以上） ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —	施策の事業費（上段：最終予算）（下段：決算額）	1,275 千円 883 千円

達成度の理由	指定文化財公開事業の参加者数は、新型コロナウイルス感染症拡大防止による事業の中止、縮小により、目標数を達成しなかった。 文化財サポーター数は、新たに「認定文化財ガイド」制度を創設して、成果目標を達成できた。 以上のことから施策全体の達成度は「目標をほぼ達成」と判断した。
設定成果指標以外に現れた成果の説明	展示・公開事業について、 1.「下原遺跡(矢口地区)で見つかったもの」（6ヶ月間）、2. 有名だった安食の花火「神発流煙火」は、町の文化財の普及に大変貢献した。
外部環境の変化や住民ニーズの変化など、今後、課題と対応が予測されるもの	・国史跡「龍角寺古墳群・岩屋古墳」に係る「保存活用計画」の策定ができていないため、戦略的な活用ができていない。 ・岩屋古墳・浅間山古墳エリアに係る環境整備面積の増大による除草作業が課題となっている。 ・栄町史刊行計画の凍結状況の長期化による弊害が顕著となっていることから、発刊準備の進んでいる部分の刊行を早期に実施する必要が生じている。
住民との協働や他課の事業との連携	栄町文化財サポーター、のら里くら里健康ウォーキングの会などと公開事業の協働を推進し、産業課との観光計画との整合連携を図る。

2. 事務事業の取組

（単位:千円）

事務事業名	令和2年度の取組実績	事業の評価（取組の課題及び今後の課題への対応）	事業費	
① 文化財等展示・公開事業	○栄町文化財サポーターガイド ・文化財公開事業関係438人 さくらまつり協賛(中止),ふるさとまつり協賛(中止) 国指定文化財公開事業(11/3特別公開) :岩屋古墳169人・龍角寺80人 ・他団体事業関係103人 ﾉﾙﾃﾞｨｯｸｳｫｰｷﾝｸﾞ:龍角寺25人 青少年相談員事業:岩屋古墳78名 ・校外学習関係86人 :岩屋古墳・布鎌小12人 :龍角寺・安食小41人・竜角寺台小21人・布鎌小12人など ○文化財講演会「龍角寺発掘調査報告」（中止） ○龍角寺出土塼仏展示会（中止） ○ロビー展示 ・「下原遺跡（矢口地区）でみつかったもの」（R2.9～R3.3） ・有名だった安食の花火「神発流煙火」（R2.12～R3.3）	【取組への課題】 ・文化財サポーターの文化財ガイドのモチベーション維持が課題である。 ・龍角寺に関連する関心が高まっていることから整理作業の終了した埋蔵文化財を中心とした展示・公開が必要である。	H30 決算	2,662
			R元 決算	569
		【課題を踏まえ今後の対応】 ・国指定文化財公開事業（岩屋古墳、浅間山古墳、龍角寺）の充実について、特に町内各小学校の校外学習支援を強化する。 ・龍角寺遺跡の調査研究に実績のある早稲田大学と協働し展示・公開を推進する。 ・文化財サポーターの文化財ガイドのモチベーション維持を図り積極的に実践していただけるように活動の場の提供など支援する。	R2 予算	445
			R2 決算	234

②	町史編さん事業	○町史編さん ・町史関係の成果の公表（広報12回掲載）事業の関心を高めることができた。 ○記録史料の保存・公開 ・歴史公文書の整理保存作業（35%：194/554箱） ・地域史料の整理保存作業（ふすま下張り文書：矢口・湯浅家文書、矢口村関係文書）文化財サポーター（年間39回、延べ119人）との協働作業で終了させることができた。	【取組への課題】 ・町史編さん 広報誌への掲載について、スペースが限られていることから 原稿量の調整が難しい。 ・ 記録史料の保存・公開 1. 歴史公文書の整理保存作業は、専門職員の人的、時間的確保に苦慮している。 2. 地域史料の整理保存作業は、文化財サポーターの人的減少が生じている。	H30 決算	84
				R元 決算	84
			【課題を踏まえ今後の対応】 ・町史編さん 広報誌への掲載について、時宜を得たテーマや歴史講座参加者、文化財サポーター登録者などから興味のあるテーマを聞き取り、記事に反映させる。 ・記録史料の保存・公開 1. 歴史公文書の整理保存作業日を固定化して作業時間を確保し、公文書管理法に基づく例規等の整備を進め、歴史公文書のライフサイクルを確立させる。 2. 地域史料の整理保存作業は、栄町古文書学習会への支援を強化し協力を得て、文化財サポーターを確保し作業の継続を図る。	R2 予算	142
				R2 決算	85
③	文化財サポーター育成の推進	○幹事会、全体会の開催 ○研修 ・.ガイド実習関係 岩屋古墳・龍角寺ガイド8回、 ・.講演会・講座・展覧会関係 風土記の丘資料館考古学講座(岩屋古墳)1回 ・自主研修会関係6回 ○国史跡環境整備活動の実施 ・年間12回　延べ53人 ○岩屋古墳周辺エリア環境整備委託（篠竹伐採）岩屋古墳エリア：9,600㎡、浅間山古墳エリア：4,640㎡ ○岩屋古墳ネットフェンス設置工事	【取組への課題】 ・文化財ガイドの対応について、文化財サポーターへ研修の充実とガイドマニュアルの必要性が生じている。 ・浅間山古墳本体の環境整備作業を実施することが課題となっている。	H30 決算	85
				R元 決算	135
			【課題を踏まえ今後の対応】 ・房総のむら、栄町観光協会、コスプレの館との連携を進めることで文化財ガイド活動の連携を図りたい。 ・浅間山古墳の重要性を普及させることで、地元自治会や文化財サポーターなどの理解を得て環境整備作業の進捗を図りたい。 ・文化財ガイドの対応について、文化財サポーターへ研修の充実とガイドマニュアルの整備を図る。	R2 予算	688
				R2 決算	564
合　計				H30 決算	2,831
				R元 決算	788
				R2 予算	1,275
				R2 決算	883

学識経験者の意見（基本方針（Ⅳ）について）

【施策名：芸術文化活動の支援】

・この施策だけでなく，すべての事業にいえることですが，新型コロナ感染症拡大を防ぐために事業の中止，縮小はやむを得ないことだと思います。事業の実施が困難な中で，文化ホールの公演や文化祭，サークル活動の制限がかなりありました。令和３年度もまだ制限はありますが，各サークル活動の実績も項目として加えてもよいのではないかと思います。事業が実施できないときなどは，例えば，予算の用途を少し変更して町民の方に「ふれあいプラザの利用に関するアンケート」などを実施することもよいと思います。新型コロナウイルス感染症の影響で，ふれあいプラザの利用については遠慮される方も多いと思うので，別の視点で捉えてみてもよいと思います。

・毎年，文化祭を楽しみにしていましたが，中止になったので残念に思います。展示だけでもお願いしたいと思います。

・サークル活動をされている皆さんが日ごろから取り組まれてきた成果を披露する場があるとよいと思います。

【施策名：文化財等の保護と活用】

・「成果指標及び実績」の指標「指定文化財公開事業の参加者数」については，コロナ禍の影響で減少していますが，それでも４３８人の方が参加されています。素晴らしいことだと思います。町の地域文化財に思い入れのある方が文化財サポーターになられて，そうした方々の発掘が功を奏していると思います。

・「施策全体の達成度」は，☆３つでよいと思います。

・「事務事業の取組」③「文化財サポーター育成の推進」について，「岩屋古墳周辺エリア環境整備委託」があります。文化財サポーターさんには，古墳エリアの保全作業だけをお願いするとモチベーションが下がっていくと思います。環境整備事業以外にも知識が発揮できる事業の展開も必要だと思います。文化財サポーターさんの協力を必要とする事業などの機会を見つけて参加していただくことで文化財サポーターさんの意欲も高まるのではないかと思います。

・私が主催している「のら里くら里健康ウォーキング」の事業を行う際には，文化財サポーターさんのご協力もいただいて実施しています。文化財のガイドや勉強されたことを披露していただけるということで，ありがたいと思います。また，「のら里くら里健康ウォーキング」では，ケーブルテレビさんの取材をお願いしています。栄町の歴史など放送してくださるということです。このように町の歴史の魅力を内外にアピールしていけたらよいと思います。

・文化財サポーターさんが説明をされているところを見たことがあります。その説明が聞こえてきたのですが，私自身，古墳について知らなかったことがかなりありました。また，子どもたちも古墳などの文化財について興味を示すのではないかと思うほど楽しいお話でした。小学校の校外学習でも活躍されているとのことですので，そうしたこともアピールをしてもよいと思います。

学識経験者からの意見を受けた今後の取組について

生涯学習課より

【施策名：芸術文化活動の支援】

１．ふれあいプラザの利用等におけるアンケートの実施について

各種講座などの生涯学習事業の実施の際、講座の内容や希望講座等のアンケートを実施していますが、今後、来館者のふれあいプラザの利用に関する意見の聴取やアンケートの実施を検討し、芸術文化活動の支援に繋げていきたいと思います。

また、今回いただいたご意見を踏まえ、指標の設定では次期基本計画において検討させていただきたいと考えます。

２．文化祭等の中止に伴うサークル活動への対応について

令和３年度は，３月第１週の土曜日，日曜日に開催の方向で文化祭実行委員会が協議を進めております。しかし，国から新型コロナウイルスワクチンの３回目の接種について，正式に決定された場合は，文化ホールを使用することから，文化祭を行うための使用ができなくなります。そうした状況も踏まえ，サークルの皆さんの成果を発表できる機会を設けられるよう検討し，現時点では１月２９日，３０日に開催することとなりました。

【施策名：文化財等の保護と活用】

１．文化財サポーターの活用について

文化財サポーターへの研修の充実，及びガイドマニュアルの整備を図り，文化財ガイドとして活用していきます。

２．栄町文化財の活用について

国指定文化財を中心とした文化財等の展示・公開を推進していきます。

５　本町教育行政が取組む方向について

教育長より

令和２年度の点検評価において，最も記すべきことは何だったか。問われれば，パンデミックである「『新型コロナウイルス COVID19』と学校教育」かと，誰しもが納得するところでありましょう。

前年度である令和 2 年 2 月 27 日夕，安倍総理大臣会見により 3 月 2 日から開始した全国の臨時休業。それに備え開催した 2 月 28 日朝の臨時校長会議では「まるで戒厳令のようだ」と述べた記憶を思い出しています。

新年度 4 月からも延長され，町教委からの要請による「教科書を配布するだけの始業式・入学式」という１度の登校を経て，５月末日まで延長せざるを得ませんでした。「三密」という新たなスローガンによる「新しい生活様式」が叫ばれ，学級集団による人格の完成を目指してきた教育の根幹が揺さぶられ，学校が変わらざるを得ないものとなりました。その後，3 か月に及ぶ休業の時数を補う形で，夏休みには補習が実施され，15 日間に亘る給食を無償提供したところです。運動会は制限の中で実施され，修学旅行は中止されていきました。

そして，次に来る臨時休業に備える形で，家庭とオンラインでつなぎ，学習指導が継続できるようにという「一人一台タブレットの配布」が国により強力に推し進められました。本町でも，国の指導に沿う形で，令和 2 年 12 月末に配布が完了し，翌 1 月には家庭への持ち帰りを行ったところです。加えて，働き方改革の観点から計画していた”校務を支援する教員用の PC 機器”も新たに導入できました。

また，社会教育・生涯学習の面においても，新しい生活様式が求められました。町の文化芸術の祭典とも言うべき「ふれあい文化祭」が 2 年続けて中止となりました。ふれプラを拠点とする町民の皆様方による文化芸術活動に大きな影響が出てしまい，学校の体育館や町の体育館を使用していた社会体育活動も同様となりました。

そのような中ではありましたが，ふれプラ図書室では貸し出す書籍のために滅菌機を備えた感染対策を施し，できる限りの貸出しに努め，貸館では換気の点検を職員が厳しく行う中で，感染対策を整えつつクラスターの発生を防ぎ，開館を続けてきました。

中でも，町を挙げての一大儀式ともいえる『成人式』については，緊急事態宣言が急遽発令されるに至り，中止としましたが，代替企画として，ふれプラ内にバルーンアートで飾った撮影スポットを設置するとともに，SNS にて町長の祝辞や実行委員からのメッセージにて交流する形へと改善し，好評を博したところです。

教育は，『国家百年の大計』，『米百俵』と，縷々説かれます。その中でも，令和 2 年度は，コロナ禍で臨時休業が継続される中，「子供たち『三人に一台』から『一人一台』のタブレット配備」へと，町行政からの『米百俵』に値するものと感じ入りました。改めて，予算の編成，議決していただいた関係各位に感謝し，よりよい学校教育へと注力することを約するものです。

最後になりますが，点検評価にかかり，永年の間，務めていただいている中澤一夫氏，そして，町教育委員で保護者委員として６月１９日に退任された弘海千鶴氏，お二方による”町民目線・保護者目線”からのご至言に感謝申し上げます。

追申

【R3.9.8　緊急事態宣言下の小学校。家族の発熱で出勤を控えた 2 名の教員が，自宅から教室の子供たちへ『オンライン指導』されたとのこと。”隗より始め”てくれました。】